

AB9 Pro/AB9

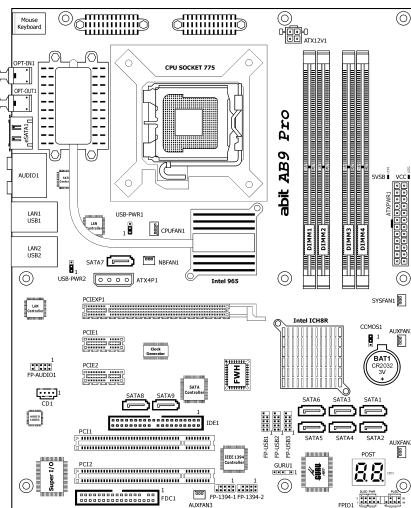
マザーボード
ソケット 775

Intel Core 2 Duo
Intel Pentium 4
Intel Pentium D

ユーザーズマニュアル

当マニュアルについて：

当ユーザーズマニュアルには、マザーボードセットアップに必要な情報が全部載せられています。PDF 形式のユーザーズマニュアル ([Adobe Reader](#) で表示可能) をご覧になるには、“ドライバ&ユーティリティ CD”をコンピュータのCD-ROM ドライブに入れます。オートラン画面が表示されたら、“マニュアル”タブを押してサブメニューに移動します。表示されない場合は、ファイルマネージャで CD-ROM のルートディレクトリを表示して、“AUTORUN”ファイルをダブルクリックしてください。



- ☐ LGA775 ATX マザーボード
- ☐ Intel 965 / ICH8R (AB9 Pro)
- ☐ 1066MHz FSB
- ☐ デュアル DDR2 800
- ☐ デュアル GbE LAN (AB9 Pro)
- ☐ IEEE 1394
- ☐ 10x SATA 3Gb/s (AB9 Pro)
- ☐ 7.1 チャンネル HD オーディオ
- ☐ サイレント OTESTM テクノロジ
- ☐ uGuru™ テクノロジ

はじめに

ハードウェア設定

BIOS 設定

ドライバ及びユーティリティ

付録

AB9 Pro, AB9

ユーザーズマニュアル

日本語、第2版

2006年8月

著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

目 次

1. はじめに	1-1
1.1 機能と仕様	1-1
1.2 マザーボード配置図	1-3
1.2.1 AB9 Pro	1-3
1.2.2 AB9	1-4
2. ハードウェアの設定	2-1
2.1 コンピュータケースの選択	2-1
2.2 マザーボードのインストール	2-1
2.3 ジャンパー設定の確認	2-2
2.3.1 CMOS メモリクリア用ヘッダ及びバックアップ電池	2-3
2.3.2 ウェークアップヘッダ	2-5
2.4 シャーシのコンポーネントの接続	2-6
2.4.1 ATX 電源入力コネクタ	2-6
2.4.2 フロントパネルスイッチとインジケータヘッダ	2-7
2.4.3 ファン電源コネクタ	2-8
2.5 ハードウェアのインストール	2-9
2.5.1 CPU ソケット 775	2-9
2.5.2 DDR2 メモリスロット	2-12
2.6 周辺デバイスに接続する	2-14
2.6.1 フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ	2-14
2.6.2 シリアル ATA コネクタ	2-15
2.6.3 追加 USB ポートヘッダ	2-16
2.6.4 追加 IEEE1394 ポートヘッダ	2-16
2.6.5 内部オーディオコネクタ	2-17
2.6.6 フロントパネル音声接続ヘッダ	2-17
2.6.7 PCI および PCI Express X16、X1 スロット	2-19
2.6.8 GURU パネル接続ヘッダ	2-20
2.7 オンボード状態表示	2-21
2.7.1 POST コード表示部	2-21
2.7.2 電源インジケータ	2-22
2.8 I/O デバイスの接続	2-23
3. BIOS 設定	3-1
3.1 µGuru™ Utility	3-2
3.1.1 OC Guru	3-2

3.1.2 ABIT EQ	3-4
3.2 Standard CMOS Features.....	3-10
3.3 Advanced BIOS Features	3-14
3.4 Advanced Chipset Features.....	3-17
3.5 Integrated Peripherals.....	3-18
3.6 Power Management Setup.....	3-21
3.7 PnP/PCI Configurations	3-24
3.8 Load Fail-Safe Defaults	3-26
3.9 Load Optimized Defaults	3-26
3.10 Set Password.....	3-26
3.11 Save & Exit Setup	3-26
3.12 Exit Without Saving.....	3-26
4. ドライバ及びユーティリティ	4-1
4.1 Intel チップセットソフトウェアインストールユーティリティ	4-2
4.2 Intel Matrix ストレージテクノロジードライバ	4-3
4.3 Realtek オーディオドライバ.....	4-4
4.4 Realtek LAN ドライバ	4-5
4.5 Silicon Image 3132 SATA ドライバ	4-6
4.6 JMicron SATA ドライバ	4-7
4.7 USB 2.0 ドライバ	4-8
4.8 ABIT µGuru ユーティリティ	4-8
4.9 Intel SATA RAID ドライバディスクメーカー	4-9
4.10 Sil3132 SATA RAID ドライバディスクメーカー	4-10
4.11 JMicron SATA RAID ドライバディスクメーカー	4-11
5. 付録	5-1
5.1 POST コード定義.....	5-1
5.1.1 AWARD POST コード定義	5-1
5.1.2 AC2005 POST コード定義	5-4
5.2 トラブルシューティング（テクニカルサポートの受け方について？）	5-5
5.2.1 Q & A.....	5-5
5.2.2 テクニカルサポート用紙.....	5-8
5.2.3 Universal ABIT へのご連絡情報	5-9

1. はじめに

1.1 機能と仕様

CPU

- 1066/800/533MHz FSB の Intel® Core 2 Duo、Pentium® 4、Pentium® D プロセッサをサポート

チップセット

- Intel P965 / ICH8R (**AB9 Pro**)
- Intel P965 / ICH8 (**AB9**)

メモリ

- 4 個の 240 ピン DIMM スロット
- デュアルチャンネル DDR2 800/667/533 バッファなし非 ECC メモリ対応
- 最大 8GB のメモリをサポート

LAN

- オンボードデュアル PCI-E ギガビット LAN コントローラで 10/100/1000Mb イーサネット対応 (**AB9 Pro**)
- オンボード PCI-E ギガビット LAN コントローラで 10/100/1000Mb イーサネット対応 (**AB9**)

IEEE 1394

- 2 ポートの IEEE 1394 は 400Mb/s 転送速度をサポート

オーディオ

- オンボードの 7.1 チャンネル音声
- ジャック自動検知機能及び光学 S/PDIF 入出力を装備

拡張スロット

- 1x PCI-E X16 スロット
- 2x PCI-E X1 スロット
- 2x PCI スロット

内蔵 I/O コネクタ

- 1x フロッピーポート
- 1x ATA 100/66/33 IDE コネクタ
- 9x SATA コネクタ (**AB9 Pro**)
- 6x SATA コネクタ (**AB9**)
- 3x USB 2.0 ヘッダ
- 2x IEEE1394 ヘッダ
- 1x FP-Audio ヘッダ

- 1x CD-In コネクタ

後部パネル I/O

- 1x PS/2 キーボードコネクタ
- 1x PS/2 マウスコネクタ
- ABIT Silent OTES™
- 1x OPT-IN1 コネクタ
- 1x OPT-OUT1 コネクタ
- 1x eSATA1 コネクタ (**AB9 Pro**)
- 1x AUDIO1 コネクタ (サラウンド左/サラウンド右、リアレフト / リアライト、センター/サブウーファ、Mic-In、ライン入力、ライン出力)
- 4x USB 2.0 コネクタ
- 2x RJ-45 ギガビット LAN コネクタ (**AB9 Pro**)
- 1x RJ-45 ギガビット LAN コネクタ (**AB9**)

シリアル ATA

- Intel ICH8R による 6 つの SATA 3Gb/s で Intel Matrix Storage Tech (AHCI & RAID 0/1/5/10) をサポート (**AB9 Pro**)
- Intel ICH8 による 4 つの SATA 3Gb/s (**AB9**)
- JMicron JMB363 による 2 つの SATA 3Gb/s で 最大 0、1、JBOD RAID 機能をサポート (**AB9 Pro**)
- Silicon Image 3132 による 2 つの SATA 3Gb/s (**AB9 Pro**)

ABIT 開発元

- ABIT SoftMenu™ テクノロジ
- ABIT uGuru™ テクノロジ
- ABIT Silent OTES™ テクノロジ

RoHS 適合

- 100% 鉛フリーのプロセスと RoHS 適合

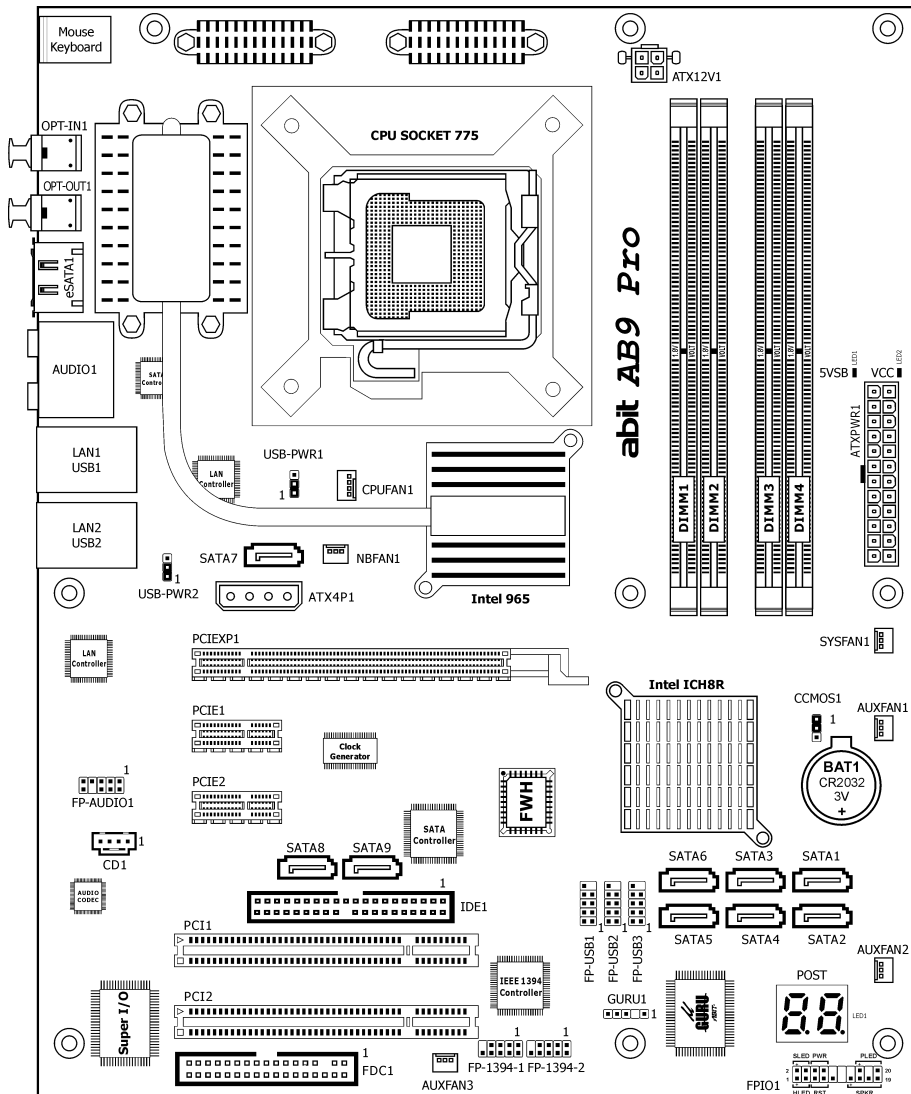
その他

- ATX フォームファクタ (305mm x 245mm)

※ 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

1.2 マザーボード配置図

1.2.1 AB9 Pro



1-4



2. ハードウェアの設定

この章では、当マザーボードをご使用のコンピュータにインストールするのに必要な情報を詳細に説明します。

※ 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフにしてから、AC アダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC 電源コードのプラグを差し込んでください。

2.1 コンピュータケースの選択

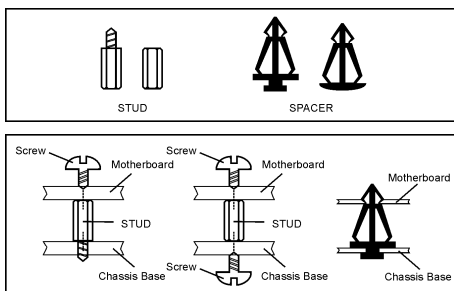
- 当マザーボードは ATX 規格でサイズは 305 x 245 mm です。このマザーボードがインストールできるサイズのケースをお選びください。
- 当マザーボードの機能には、ケーブルをケース上の表示部、スイッチ類及びボタン類に接続して使用するものがあります。お選びのケースがこれらの機能に対応していることをご確認ください。
- ハードディスクドライブを増設する可能性がある場合は、ケースのスペース及び供給電源容量が十分であることを確認してください。
- ケースの大部分は後部パネルに I/O シールドに相当するカバーが付属しています。ケースの I/O シールドが当マザーボードの I/O ポート設定に合致することを確認してください。パッケージには当マザーボード用に設計された I/O シールドが付属しています。

2.2 マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の 2 つの方法があります。

1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する

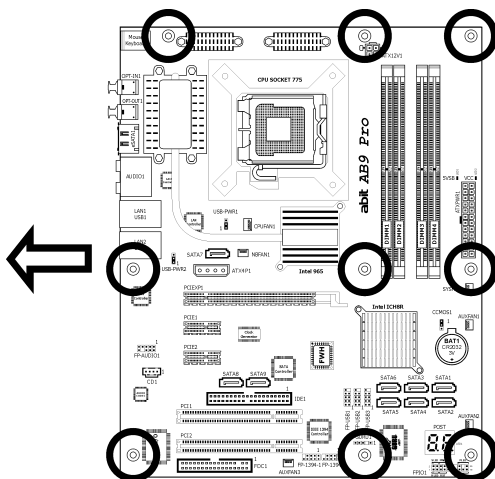
原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができたなら、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終えたら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。



マザーボードのインストール方法：

1. マザーボード及びケース基部のネジ穴位置を全部確認します。
2. ケース基部にスペーサーを取り付けます。
3. マザーボード I/O ポートをケースの後部パネル側に合わせます。
4. マザーボードのネジ穴をケースのスペーサーに合わせます。
5. マザーボードを確実にネジ止めます。

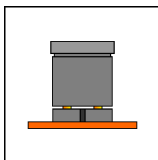
ケースの後部パネルに合わせる。



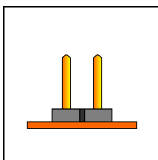
※ PCB サークットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサーがすでにシャーシ台にしっかり取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサーを取り外してください。

2.3 ジャンパー設定の確認

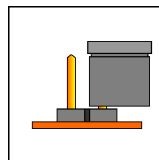
2 ピンジャンパーの場合、ジャンパーキャップを2つのピンに挿すとクローズ（ショート）になります。ジャンパーキャップを外すか、片側のピンにのみ挿す（以後の使用のため保存）と、オープンになります。



ショート

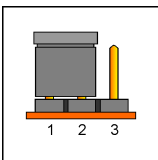


オープン

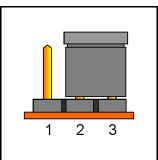


オープン

3 ピンジャンパーの場合、ジャンパーキャップを挿すことでピン 1~2 またはピン 2~3 がショートされます。



ピン 1~2 ショート



ピン 2~3 ショート

2.3.1 CMOS メモリクリア用ヘッダ及びバックアップ電池

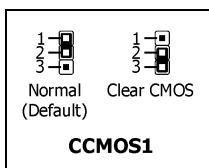
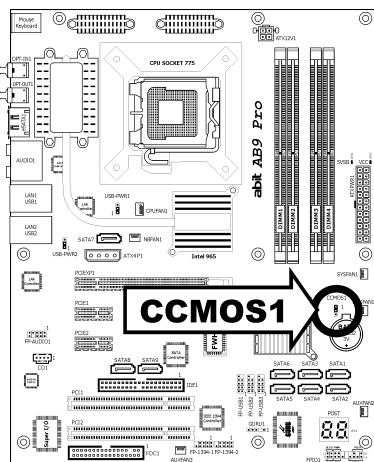
CMOS メモリをクリアする必要があるのは以下の場合です。(a) CMOS データが損傷した場合、(b) BIOS メニューで設定した管理者またはユーザーパスワードを忘れた場合、(c) BIOS メニューから設定された CPU レシオ/クロックが不正でシステムが起動不能になった場合、または (d) CPU またはメモリモジュールに変更があったとき。

このヘッダにはジャンパーキャップが使用され、CMOS メモリをクリアして BIOS の工場設定値に再設定するのに使用します。

- ピン 1 と 2 をショート（デフォルト）：通常の操作
- ピン 2 と 3 をショート：CMOS メモリをクリア

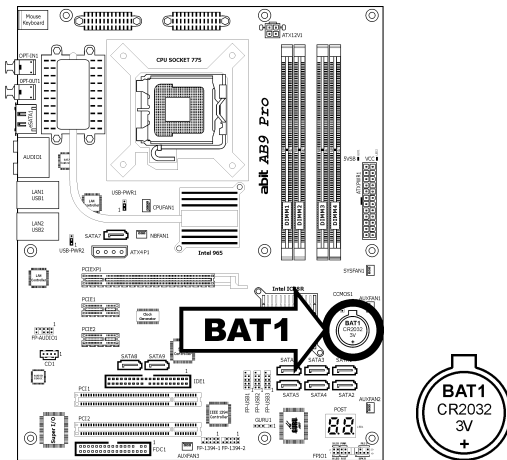
CMOS メモリをクリアしてデフォルト値をロードする方法：

1. 電源をオフにします。
2. ピン 2 とピン 3 をジャンパーキャップでショートさせます。数秒待ちます。ジャンパーキャップを元の位置— ピン 1 とピン 2 のショート—に戻します。
3. システムの電源を入れます。
4. BIOS で不正な CPU レシオ/クロック設定をした場合は、システム電源をオンにして直ぐに〈Del〉キーを押して BIOS セットアップメニューに移ります。
5. CPU 動作クロックをデフォルト値に戻すか、またはふさわしい値に設定します。
6. BIOS セットアップメニューを保存して終了します。



CMOS バックアップ電池：

オンボードの電池により、システム電源をオフにして長時間経過しても CMOS メモリ上に BIOS 情報が保持されます。ただし、バックアップ電池は約 5 年で寿命となります。画面に**"CMOS BATTERY HAS FAILED"**または**"CMOS checksum error"**などの表示が出た場合は、電池切れなので電池を交換する必要があります。



バックアップ電池の交換方法：

1. システム電源を切り、AC のプラグを外します。
2. 切れた電池を外します。
3. 新しい CR2032 または相当する電池を取り付けます。極性に注意してください。"+"のマークがプラス側です。
4. AC 電源のプラグを差し、システム電源を入れます。
5. BIOS セットアップメニューを起動させます。必要ならセットアップパラメータを設定します。

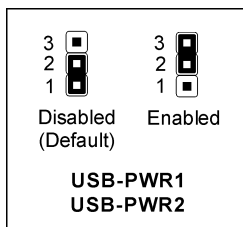
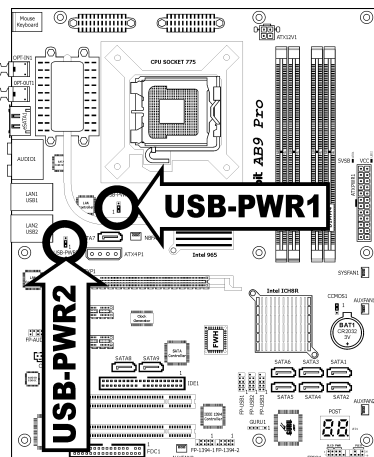
ご注意：

- ※ 電池を入れ間違えると破裂のおそれがあります。
- ※ 交換には同型のものか、電池メーカーの推奨するタイプをご使用ください。
- ※ 使用済み電池の処理は、電池メーカーの指示に従ってください。

2.3.2 ウェークアップヘッダ

これらのヘッダはシステムの wake-up の機能を enable (有効) /disable (無効) をジャンパキャップで設定します。

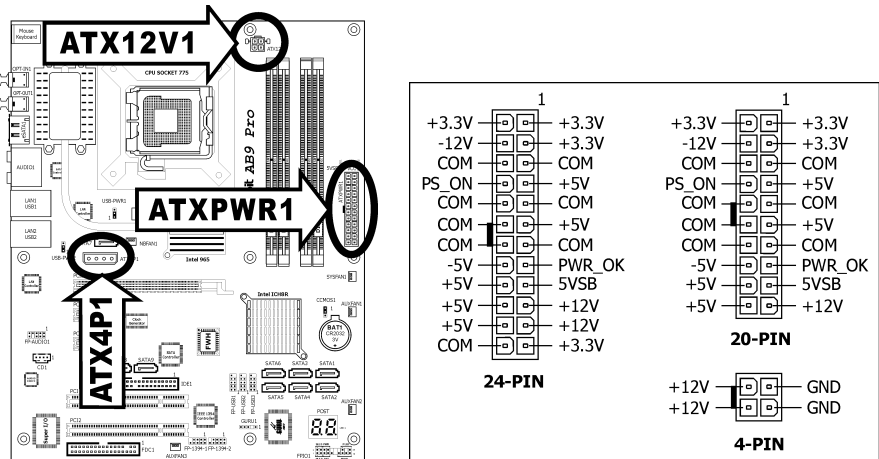
- USB-PWR1 :**
 ピン 1-2 ショート (デフォルト) : USB1 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
 ピン 2-3 ショート : USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。
- USB-PWR2 :**
 ピン 1-2 ショート (デフォルト) : USB2 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
 ピン 2-3 ショート : USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。



2.4 シャーシのコンポーネントの接続

2.4.1 ATX 電源入力コネクタ

コンポーネント類のコネクタは ATX 電源から接続します。電源からのプラグは特定の方向にのみ挿せるので、コネクタ類に接続する際は方向を確認し、確実に接続します。



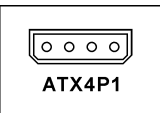
ATX 24 ピン電源コネクタ：

20 ピンまたは 24 ピンのケーブルを有する電源は、この 24 ピンコネクタに接続できます。どちらのタイプもピン 1 を合わせてください。ただし、20 ピンの電源では電力不足のためシステムが不安定になったり起動不能になったりする可能性があります。推奨電源は最低 300W 以上です。

ATX 12V 4 ピン電源コネクタ：

このコネクタは CPU への電力を供給します。このコネクタに接続しないと、システムは起動しません。

補助 12V 電源コネクタ：

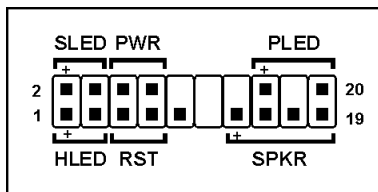
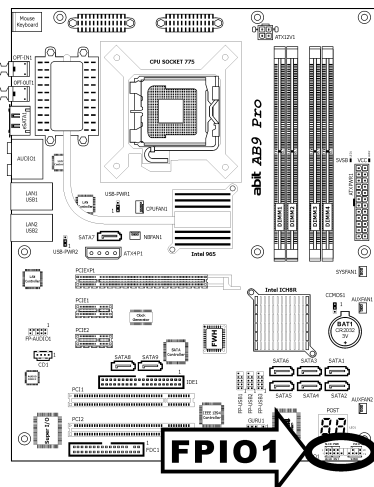


このコネクタは PCI Express スロットに搭載されるデバイス用の補助電力を供給します。

2.4.2 フロントパネルスイッチとインジケータヘッダ

このヘッダは、スイッチとLED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッダに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことですが、スイッチの間違った接続はシステムの故障の原因となることがあります。



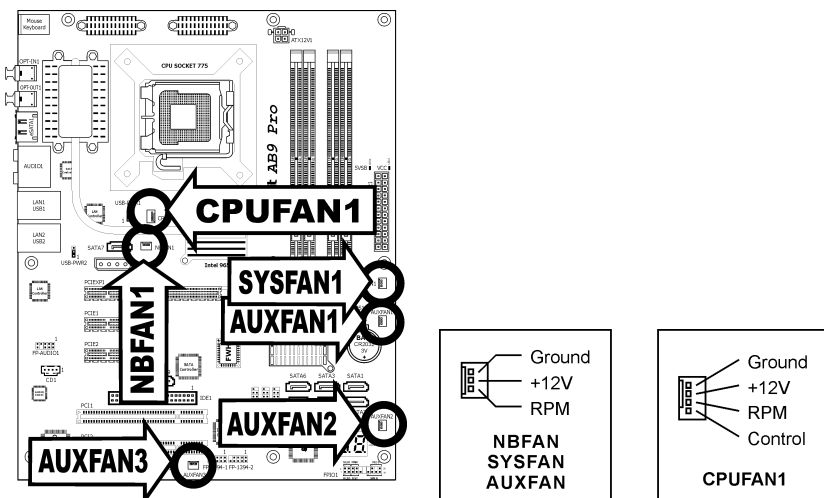
- **HLED (ピン 1、3) :**
シャーシの前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST (ピン 5、7) :**
シャーシの前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPKR (ピン 13、15、17、19) :**
シャーシのシステムスピーカーケーブルに接続します。
- **SLED (ピン 2、4) :**
シャーシの前面パネルのサスペンド LED ケーブルに接続します（ケーブルがある場合）。
- **PWR (ピン 6、8) :**
シャーシの前面パネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED (ピン 16、18、20) :**
シャーシの前面パネルの電源 LED ケーブルに接続します。

2.4.3 ファン電源コネクタ

これらコネクタはそれぞれシステムにインストールされたクーリングファンに電源を供給します。

- **CPUFAN1** : CPU ファン電源コネクタ
- **NBFAN1** : チップセットファン電源コネクタ
- **SYSFAN1** : システムファン電源コネクタ
- **AUXFAN1~3** : 補助ファン電源コネクタ

※ これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください。

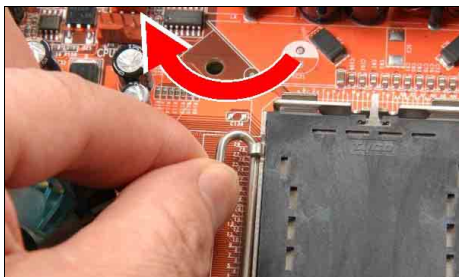


2.5 ハードウェアのインストール

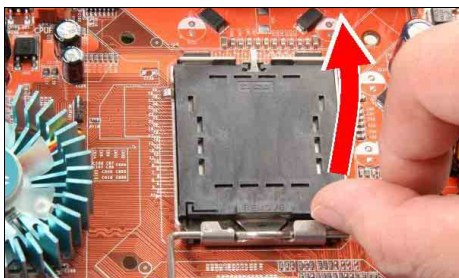
- ※ ハードウェアのインストール時にマザーボードに傷を付けないでください。小さな取り付けパーツの傷によりマザーボードが損傷する場合があります。
- ※ 接触ピンを保護するため、以下にご注意ください。
 1. 最大 20 周期の CPU インストールをお勧めします。
 2. 指やその他の物で接触ピンに触れないでください。
 3. CPU を使用していない場合は、常にキャップをかぶせてください。

2.5.1 CPU ソケット 775

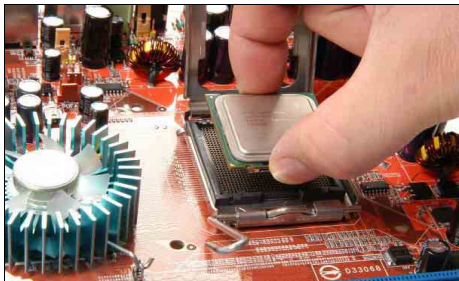
1. ソケットのレバーフックが左側になるようにボードを置いてください。左手の親指と指先でレバーフックを持ち、リテンションタブから引いてください。レバーを完全に開く位置に回転させてください。



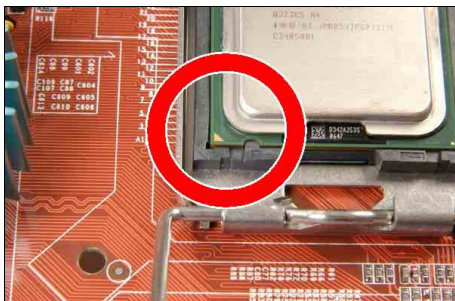
2. プレート右下に右手の親指をあてがい、完全に開く場所に持ち上げてください。



3. 右手の親指と指先で CPU パッケージを持ち、必ず基板の端を持ち、ピン 1 の標示が底部左側を向くようにしてください。ソケットの位置を確認し、CPU パッケージをソケットにまっすぐ置いてください。

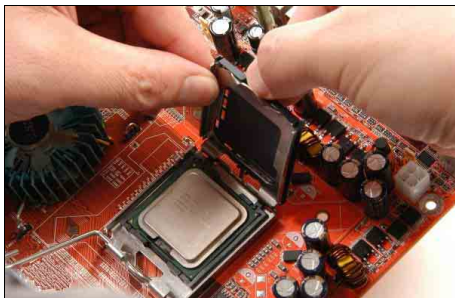


4. CPUがソケットにしっかりと固定されているかどうかを目で確認してください。配列キーはパッケージのノッチにある必要があります。



5. 左手でプレートを持ち、右手の親指でキャップを剥がします。

※ キャップは接触ピンを保護する上で非常に大切です。ピンが曲がらないよう、操作やテストの後はキャップをかぶせておいてください。



6. CPU パッケージのプレートを掲げます。プレートを押しながら、レバーをはめてください。



7. リテンションタブ下のフックでレバーを固定してください。



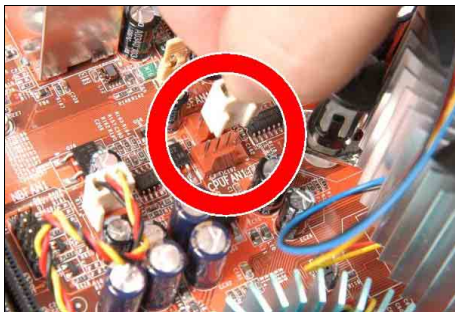
8. ヒートシンクとファン部品をソケットに置いてください。4 つの締め具をマザーボード上の 4 つのマウントホールに向けて並べます。



9. 4 つの締め具をマウントホールに押し込んでください。締め具を時計回りに回転させ、ヒートシンクとファン部品を所定の位置に固定してください。



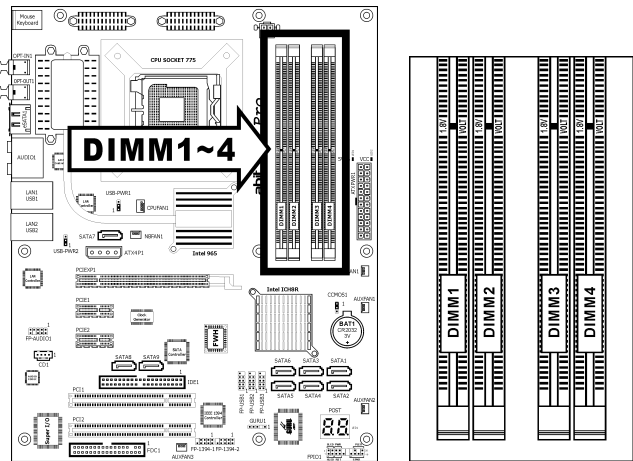
10. 4 ピンの電源プラグをヒートシンクとファン部品から CPU FAN コネクタに接続します。



- ※ インストール手順は CPU ファン及びヒートシンクアセンブリのタイプにより異なります。ここに示されているのは参考用です。お買い上げの製品のインストール方法については、そのインストール手順をご参照ください。
- ※ ファンが高速になれば流量が多くなり冷却性能は良くなります。それでもシステム動作中に発生する熱によって高温となる可能性がありますからヒートシンクの扱いにはご注意ください。

2.5.2 DDR2 メモリスロット

このマザーボードには、デュアルチャンネル DDR2 800/667/533 メモリモジュール用の 240 ピン DIMM スロットが 4 つあり、メモリサイズを最大 8GB まで拡張可能です。



- デュアルチャンネル構成で最適のパフォーマンスを達成するには、各チャンネルに対して同じ DDR2 DIMM ペアを取り付けてください。
- 同じ CAS レイテンシーで DIMM を取り付けてください。最適の互換性を達成するには、同じベンダー製のメモリモジュールを入手してください。
- チップセットリソース割り当てにより、システムは 4 つの 1GB DDR2 メモリモジュールの取り付けでは 4GB 以下のシステムメモリしか検出できません。

DIMM を各システムメモリチャンネルに取り付ける方法によって、数通りの異なる DDR2 構成が可能です。

- 「単一チャンネル」: 1 つのチャンネルしか取り付けられません。

方式	チャンネル A		チャンネル B	
	DIMM1	DIMM2	DIMM3	DIMM4
1	512MB	-	-	-
2	-	512MB	-	-
3	-	-	512MB	-
4	-	-	-	512MB
5	512MB	512MB	-	-
6	-	-	512MB	512MB

- **[デュアルチャンネル非同期]**：両方のチャンネルを取り付けられますが、各チャンネルには異なる量の総メモリがあります（チャンネル A≠チャンネル B）。

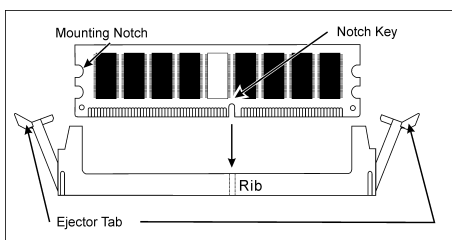
方式	チャンネル A		チャンネル B	
	DIMM1	DIMM2	DIMM3	DIMM4
1	512MB	-	256MB	-
2	-	256MB	-	512MB
3	512MB	-	-	256MB
4	-	256MB	512MB	-
5	256MB	256MB	256MB	-
6	256MB	256MB	-	256MB
7	256MB	-	256MB	256MB
8	-	256MB	256MB	256MB
9	256MB	256MB	512MB	512MB
10	256MB	256MB	256MB	512MB

- **[デュアルチャンネル同期]**：両方のチャンネルを取り付けられ、各チャンネルには同じ量の総メモリがあります（チャンネル A=チャンネル B）。

方式	チャンネル A		チャンネル B	
	DIMM1	DIMM2	DIMM3	DIMM4
1	512MB	-	512MB	-
2	-	512MB	-	512MB
3	512MB	-	-	512MB
4	-	512MB	512MB	-
5	256MB	256MB	512MB	-
6	256MB	256MB	-	512MB
7	512MB	-	256MB	256MB
8	-	512MB	256MB	256MB
9	512MB	256MB	512MB	256MB
10	256MB	512MB	256MB	512MB

メモリモジュールの取り付け/取り外しを行う前に、コンピュータの電源をオフにしてAC電源コードを抜いてください。

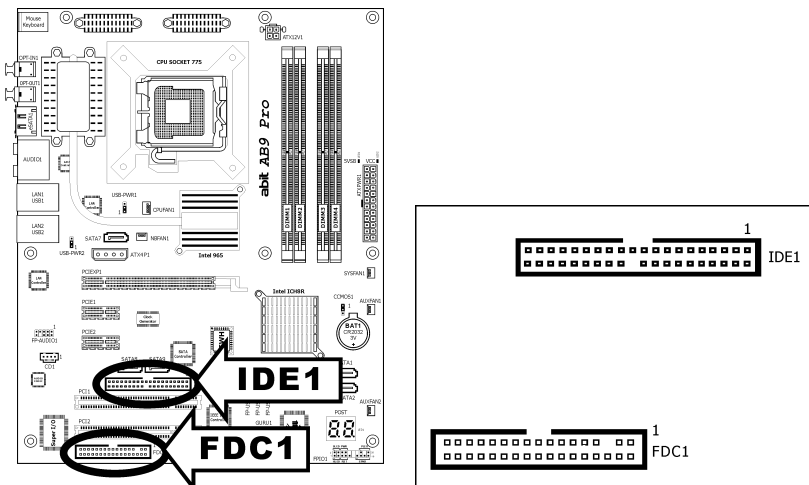
1. ボードの DIMM スロットを探します。
2. DIMM モジュールのコネクタに触らないようにしながら、その両端をそっと持ちます。
3. モジュールのノッチキーをスロットのリップに合わせます。
4. モジュールをスロットにしっかりと押しすと、スロットの両側のイジェクトタブが取り付けノッチにカチッと音を立てて自動的に固定されます。DIMM モジュールを差し込むときに無理な力を入れないでください。DIMM モジュールは一方方向にだけフィットするようになっています。
5. DIMM モジュールを取り外すには、スロットの 2 つのイジェクトタブを同時に外側に押してから、DIMM モジュールを取り出します。



※ 静電気はコンピュータの電気コンポーネントやオプションのボードを破損する恐れがあります。これらの手順を開始する前に、アースされた金属物質に軽く触れることで、静電気を確実に放電してください。

2.6 周辺デバイスに接続する

2.6.1 フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ



FDC1 コネクタは 34 ワイヤ、2 コネクタフロッピーケーブルで最大 2 つのフロッピードライブを接続することができます。リボンケーブルの長い方にある 1 つのコネクタをボードの FDC1 に接続し、もう片方の 2 つのコネクタをフロッピーディスクドライブに接続してください。通常、システムに必要なフロッピーディスクドライブは 1 つだけです。

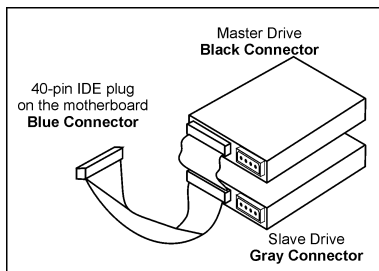
※ リボンケーブルの赤い線は FDC1 ポートとフロッピーコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

各 IDE ポートコネクタには、40 ピン、80 コンダクタ、3 コネクタの Ultra ATA/66 リボンケーブルを使って Ultra ATA/100 モードで最大 2 つの IDE ドライブを接続することができます。

リボンケーブルの長い方の端 (青いコネクタ) をこのボードの IDE ポートに接続し、短い方の端に付いた 2 つのコネクタ (灰色と黒のコネクタ) をハードドライブのコネクタに接続してください。

※ リボンケーブルで 2 つのドライブを接続する前に、"Master" と "Slave" 関係を設定してください。リボンケーブルの赤い線は IDE ポートとハードドライブコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

※ OS のインストール中に、[SATA8]、[SATA9] および [IDE1] コネクタに接続されたデバイス用に、サードパーティのドライバをインストールする必要があります。サードパーティの SCSI または RAID ドライバをインストールするよう画面で指示されたときに、<F6> キーを押してから、ドライバディスクをフロッピーディスクドライブに入れてください。



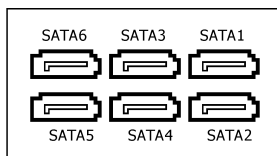
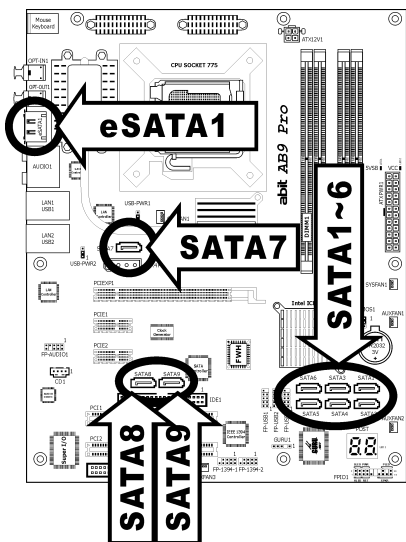
2.6.2 シリアル ATA コネクタ

各 SATA コネクタは、薄型 SATA ケーブルにより SATA 装置 1 台に接続するチャンネルとなります。

RAID 設定用ディスクアレイもこれら SATA コネクタにより提供されます。

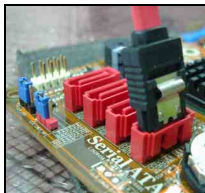
- **SATA1～SATA6:** RAID 0、RAID 1、RAID 5、または RAID 10 の構成で利用できます。
(RAID 0/10/5 で最大 4 ディスク、RAID 1 で最大 2 ディスクをサポートします) (*AB9 Pro*)
- **SATA8～SATA9:** RAID 0、RAID 1、または JBOD の構成で利用できます。
- **SATA7、eSATA1:** RAID 0、または RAID 1 の構成で利用できます。 (*AB9 Pro*)

SATA の機能モードの設定方法についての詳細は、BIOS メニューの“On-Chip IDE Device”に含まれる“On-Chip SATA”アイテムをご覧ください。



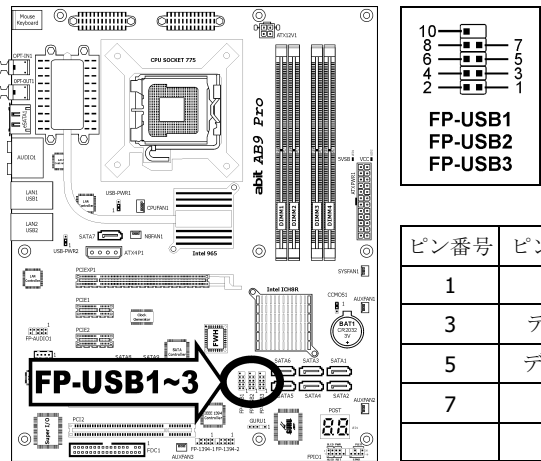
SATA デバイスの接続方法：

1. ザーボード上の SATA コネクタに信号ケーブルの一方を挿します。他方を SATA デバイスに接続します。
2. SATA 電源ケーブルの一方を SATA デバイスに接続し、他方を電源に接続します。



2.6.3 追加 USB ポートヘッダ

各ヘッダは、ブラケットやケーブルを接続することで、シャーシの後部 I/O パネル及びフロント部にそれぞれ USB 2.0 ポート 2 個を装備できます。

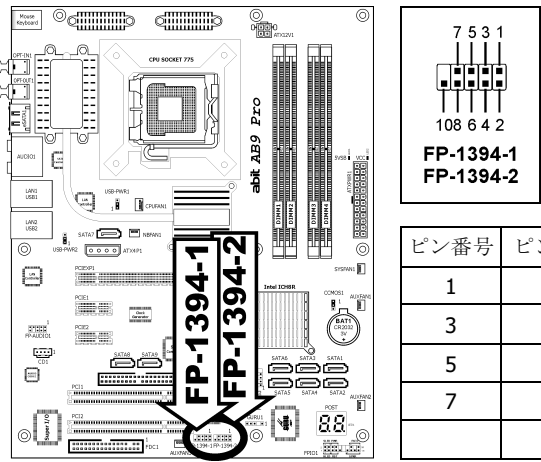


ピン番号	ピン割り当て	ピン番号	ピン割り当て
1	VCC	2	VCC
3	データ 0 -	4	データ 1 -
5	データ 0 +	6	データ 1 +
7	アース	8	アース
		10	NC

※ 接続ケーブルが同じピン排列を有していることを確認してください。

2.6.4 追加 IEEE1394 ポートヘッダ

各ヘッダはブラケットやケーブルを接続することで、シャーシの後部 I/O パネル及びフロント部にそれぞれ 1 個の IEEE1394 ポートを装備できます。

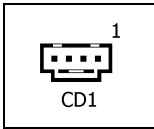
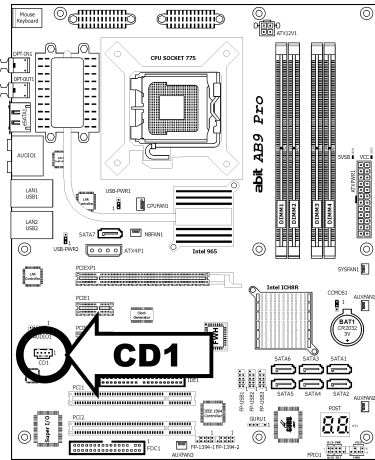


ピン番号	ピン割り当て	ピン番号	ピン割り当て
1	TPA0 +	2	TPA0 -
3	アース	4	アース
5	TPB0 +	6	TPB0 -
7	+12V	8	+12V
		10	アース

※ 接続ケーブルが同じピン排列を有していることを確認してください。

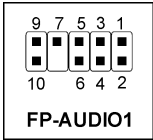
2.6.5 内部オーディオコネクタ

これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続します。

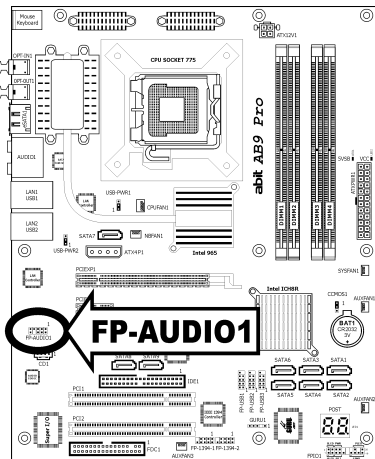


2.6.6 フロントパネル音声接続ヘッダ

このヘッダは、HD（ハイデフィニション）オーディオへのフロントパネル接続を可能にしますが、AC'97 オーディオ CODEC 接続の場合は、フロントパネルモジュールから接続する前に、ピン割り当てを注意深く確認する必要があります。正しく接続しないと、誤動作の原因となり、マザーボードに損傷を与える可能性があります。



※ [Ground] ケーブルまたは [USB VCC] ケーブルを、フロントパネルモジュールからこのヘッダの Pin 4 [AVCC] に接続しないでください。




ピン番号	ピン割り当て (HD AUDIO)
1	MIC2 L
2	AGND
3	MIC2 R
4	AVCC
5	FRO-R
6	MIC2_JD
7	F_IO_SEN
9	FRO-L
10	LINE2_JD

ピン番号	ピン割り当て (AC'97 AUDIO)
1	MIC In
2	GND
3	MIC Power
4	NC
5	Line Out (R)
6	NC
7	NC
9	Line Out (L)
10	NC

AC'97 音声接続のドライバ構成：

オーディオドライバは、本来、HD オーディオをサポートするために構成されたものです。AC'97 音声接続のためには、以下を行なってください。

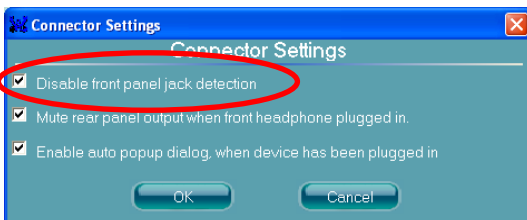
1. システムトレイで [Realtek HD オーディオマネージャ] のアイコン  を右クリックする。



2. [オーディオ I/O] タブをクリックしてから、[コネクタ設定] をクリックする。



3. [無効なフロントパネルジャックの検出] をクリックしてから、[OK] をクリックして確定する。

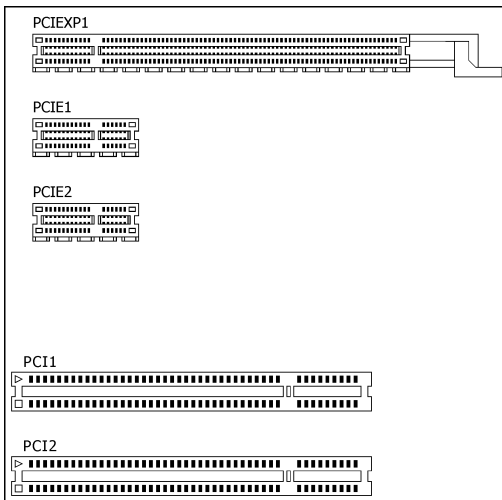
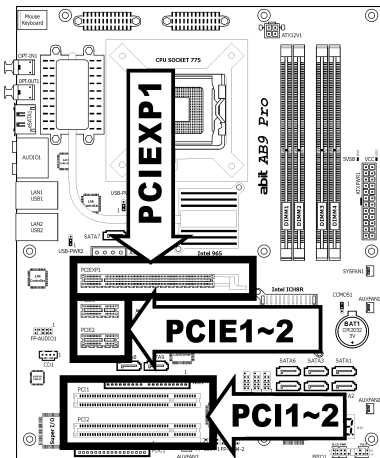


2.6.7 PCI および PCI Express X16、X1 スロット

PCI Express X16 グラフィックカードは、[PCIEXP1] のスロットに差し込みます。

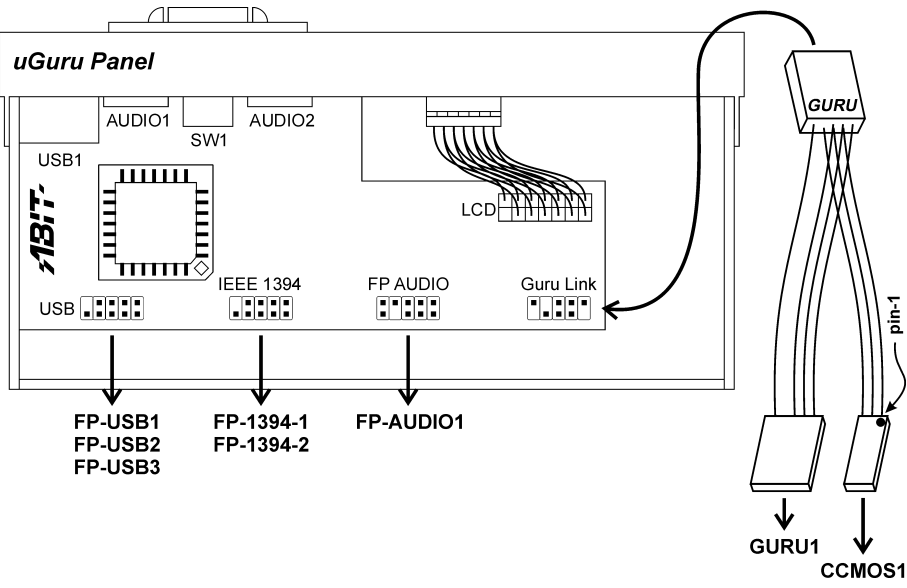
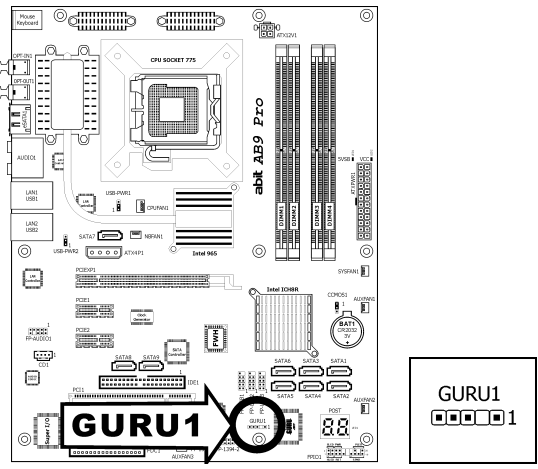
PCI Express X1 カードは、[PCIE1] または [PCIE2] のスロットに差し込みます。

PCI カードは、[PCI1] または [PCI2] のスロットに差し込みます。



2.6.8 GURU パネル接続ヘッダ

このヘッダは、ABIT 独自の GURU パネル 専用です。詳しくは、同梱の GURU パネル取り付けガイドを参照してください。



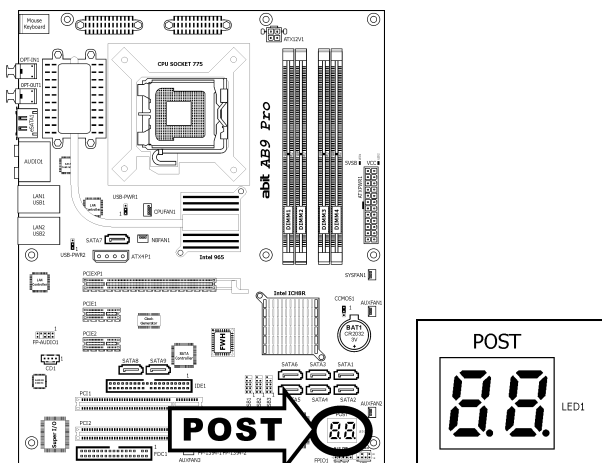
2.7 オンボード状態表示

2.7.1 POST コード表示部

これは、「POST」コードを表示するための LED デバイスです。POST は Power On Self Test の頭字語です。コンピュータは、電源をオンにされるたびに POST アクションを実行します。POST 処理は BIOS によってコントロールされます。コンピュータの主コンポーネントと周辺機器の状態を検出するために使用されます。各 POST コードは、前もって BIOS によって検出された異なるチェックポイントに対応しています。例えば、「メモリ存在テスト」は重要なチェックポイントで、その POST コードは「C1」です。BIOS は POST アイテムを実行しているとき、対応する POST コードをアドレス 80h に書き込みます。POST がパスすると、BIOS は次の POST アイテムを処理し、次の POST コードをアドレス 80h に書き込みます。POST が失敗すると、我々はアドレス 80h で POST コードをチェックしどこに問題があるのかを探し出します。

この LED デバイスは、Universal ABIT が独占的に開発した「uGuru」チップセットである、AC2005 の「POST」コードも表示します。

※ この小数点は、AC2005 POST アクションを実行しているときに点灯します。

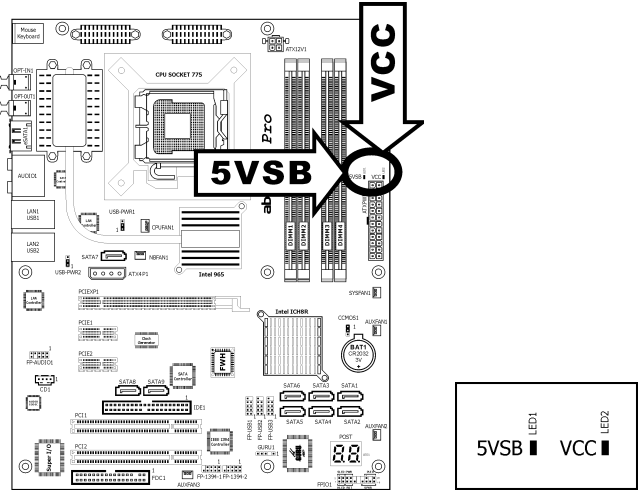


AWARD および AC2005 POST コード定義の付録をご覧ください。

2.7.2 電源インジケータ

これらインジケータは、マザーボードに接続された電源の状態を示すデバイスとして働きます。

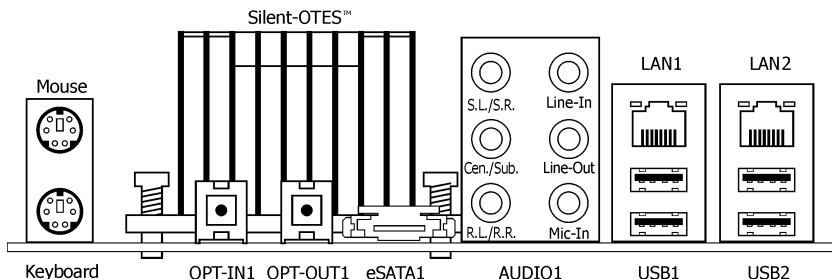
- **5VSB**：この LED は、電源装置が電源に接続されているときに点灯します。
- **VCC**：この LED は、システム電源がオンになっているときに点灯します。



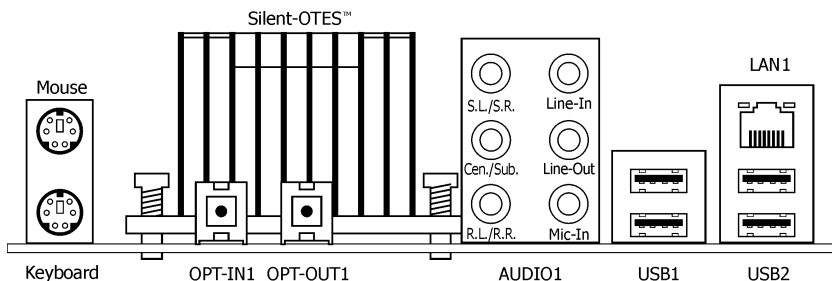
2.8 I/O デバイスの接続

当マザーボードの後部 I/O 部には下記の I/O ポートが装備されています：

AB9 Pro



AB9



- **Mouse**：PS/2 マウスに接続します。
- **Keyboard**：PS/2 キーボードに接続します。
- **Silent OTES**：Silent OTES (Silent Outside Thermal Exhaust System) は、マザーボードのノースブリッジチップセットを静かに冷却するよう特に設計されたデバイスです。
(熱放出口は塞がないでください。)
- **OPT-IN1**：このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへの S/PDIF イン接続を提供します。
- **OPT-OUT1**：このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへの S/PDIF アウト接続を提供します。
- **eSATA1**：このコネクタは、外部 SATA 接続をサポートします。(AB9 Pro)

- **AUDIO1 :**

SL/S.R. (サラウンド左/サラウンド右) : サラウンド左とサラウンド右チャンネルを 7.1 チャンネルオーディオシステムに接続してください。

R.L./R.R. (背面左 / 背面右) : 7.1 チャンネルのオーディオシステムの背面左および背面右チャンネルに接続します。

Cen./Sub. (センター / サブウーファ) : 7.1 チャンネルのオーディオシステムのセンターおよびサブウーファチャンネルに接続します。

Mic-In : 外部マイクからプラグに接続します。

Line-In : 外部オーディオソースからラインアウトに接続します。

Line-Out : 7.1 チャンネルまたは通常の 2 チャンネルオーディオシステムの前面左と前面右チャンネルに接続します。

- **LAN1 :** LAN に接続します。
- **LAN2 :** LAN に接続します。 (*AB9 Pro*)
- **USB1/USB2 :** スキャナ、デジタルスピーカー、モニタ、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。

3. BIOS 設定

このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS（基本入出力システム）はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときだけに、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、〈Ctrl〉+〈Alt〉+〈Del〉キーを押すか、コンピュータシャーシのリセットボタンを押してシステムを再起動します。これらの 2 つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

〈Del〉キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility	
<ul style="list-style-type: none">▶ uGuru Utility▶ Standard CMOS Features▶ Advanced BIOS Features▶ Advanced Chipset Features▶ Integrated Peripherals▶ Power Management Setup	<ul style="list-style-type: none">▶ PnP/PCI ConfigurationsLoad Fail-Safe DefaultsLoad Optimized DefaultsSet PasswordSave & Exit SetupExit Without Saving
Esc: Quit F10: Save & Exit Setup F6 : Save PROFILE To BIOS	↑↓→← : Select Item (i965-W627EHG-6A79LA1AC-00) F7 : Load PROFILE From BIOS
Change CPU's Clock & Voltage	

※ システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

3.1 μGuru™ Utility

この μGuru ユーティリティには 2 つのセットアップメニューがあります。これら 2 つは、キーボードの左右の矢印キーを押して切り替えることができます。

3.1.1 OC Guru

µGuru Utility v1.00C		
OC Guru		
Genuine Intel(R) CPU 3.33GHz Frequency : 3375MHz		Item Help ►
CPU Operating Speed	3333(133)	
X - External Clock	135MHz	
X - Multiplier Factor	X 25	
X - Estimated New CPU Clock	3375MHz	
X - N/B Strap CPU As	By CPU	
X - DRAM Spec. (CPU:DRAM)	By SPD	
X - Estimated New DRAM Clock	270MHz	
X - PCI Express Clock	100MHz	
Voltages Control	Auto Detect	
X - CPU Core Voltage	1.300V	
X - DDR2 Voltage	1.80 V	
X - MCH 1.25V Voltage	1.25 V	
X - ICHIO 1.5V Voltage	1.50 V	
► Power Cycle Statistics Press Enter		
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value		
F10:Save ESC:Exit		

Genuine Intel(R) CPU

このアイテムはこのマザーボードにインストールされている CPU モデル名を表示します。

Frequency

このアイテムはこのマザーボードにインストールされている CPU のプロセッサ速度を表示します。

CPU Operating Speed

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

User Define :

※ クロック倍数と外部クロックの設定を誤ると、CPU をダメージを与えることがあります。PCI のチップセットまたはプロセッサの仕様よりも高い周波数に設定すると、メモリモジュールエラー、システムクラッシュ、ハードディスクドライブのデータロス、VGA カードや他のアドオンカードの誤動作を招く場合があります。CPU の仕様外の設定は本書の目的ではありません。そうした設定はエンジニアリングテストのためで、通常のアプリケーションでは使用しないでください。

※ 仕様を超える設定に対して保証はできません。これに起因するマザーボードまたは周辺装置の損傷に対して当社は責任を負わないものとします。

- **External Clock**

このアイテムは、CPU フロントサイドバスの速度を設定します。取り付けた CPU の仕様制限によって、その標準のバス速度を超えて設定した速度はサポートされますが、保証はされません。

- **Multiplier Factor**

このアイテムは、取り付けた CPU の乗数を表示します。

- **Estimated New CPU Clock**

このアイテムは、CPU の予測速度を表示します。

- **N/B Strap CPU As**

このアイテムは、メモリコントローラハブ (MCH) に割り当てられた外部ハードウェアリセットストラップを設定します。

- **DRAM Spec. (CPU:DRAM)**

このアイテムは DRAM の周波数を決定します。

- **Estimated New DRAM Clock**

このアイテムは、DRAM 速度の推定値を表示します。

- **PCI Express Clock**

このアイテムは、PCI Express スロットのクロック周波数を選択します。

Voltages Control

このオプションは、デフォルトの電圧とユーザー定義した電圧を切り替えます。現在の電圧設定が検出できなかったり正しくない場合の除き、この設定はデフォルトのままにしておいてください。オプション"User Define" (ユーザー定義) は、次の電圧を手動で選択できます。

- **CPU Core Voltage**

- **DDR2 Voltage**

- **MCH 1.25V Voltage**

- **ICH10 1.5V Voltage**

Power Cycle Statistics

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

pGuru Utility v1.00C		
OC Guru		
Power Cycle Statistics		
PC Up Time	0 Hours	Item Help ►►
PC Up Time Total	119 Hours	
PC Power Cycles	538 Cycles	
PC Reset Button Cycles	123 Cycles	
AC Power On Total Time	288 Hours	
AC Power Cycles	228 Cycles	
↓↑→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit		

これらのアイテムは、各要素のパワー・サイクル統計を表示します。

3.1.2 ABIT EQ

〈→〉キーを使って、OC Guru セットアップ・メニューから ABIT EQ セットアップ・メニューに切り替えます。

µGuru Utility v1.00C		
ABIT EQ		
ABIT EQ Beep Control	Enabled	Item Help ▶
▶ Temperature Monitoring	Press Enter	
▶ Voltage Monitoring	Press Enter	
▶ Fan Speed Monitoring	Press Enter	
▶ FanEQ Control	Press Enter	

ABIT EQ Beep Control

このアイテムで、ABIT EQ 警告音コントロール機能を有効にしたり無効にしたりします。

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

[illegible]

CPU Temperature/SYS Temperature/PWM Temperature

これらのアイテムは CPU、システム、電源装置の温度を表示します。

- **Shutdown Enable**

〈スペース〉キーを使って、システム終了機能を有効にします。CPU/System/PWM の温度が終了温度限度を超えると、システムは自動的に終了します。

- **Shutdown Temp.**

このアイテムは、システムの過熱を防ぐために、システムを自動的に終了する温度を設定します。

- **Beep Enable**

〈スペース〉キーを使って、警告音機能を有効にします。システムが CPU/System/PWM の温度が 警告音温度限度を超えたことを検出すると、警告音が鳴ります。

- **Beep Temp.**

このアイテムは、警告温度限度を選択します。

※ 終了温度は、警告温度の上に設定しなくてはなりません。

Voltage Monitoring

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

pGuru Utility v1.00C					
ABIT EQ					
Voltage Monitoring					
	Reading	Shutdown Enable	Beep Enable	High Limit	Low Limit
(*)CPU Core Voltage	1.27 V	(*)	(*)	1.55 V	0.00 V
(*)DDR2 Voltage	1.80 V	()	(*)	2.15 V	1.45 V
(*)DDR2 VTT Voltage	0.89 V	()	(*)	1.05 V	0.70 V
(*)CPU VTT 1.2V Voltage	1.20 V	()	(*)	1.45 V	0.95 V
(*)MCH 1.25V Voltage	1.25 V	()	(*)	1.50 V	1.00 V
(*)ICHIO 1.5V Voltage	1.50 V	()	(*)	1.80 V	1.20 V
(*)ICH 1.05V Voltage	1.05 V	()	(*)	1.25 V	0.85 V
(*)ATX +12V (24-Pin Connector)	12.00 V	()	(*)	14.40 V	9.60 V
(*)ATX +12V (4-Pin Connector)	12.00 V	()	(*)	14.40 V	9.60 V
(*)ATX +5V	5.00 V	()	(*)	6.00 V	4.00 V
(*)ATX +3.3V	3.30 V	()	(*)	3.95 V	2.65 V
(*)ATX 5VSB	5.00 V	()	(*)	6.00 V	4.00 V
↓↑→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit					

All Voltages

これらのアイテムは各部分の電圧を表示します。

- Shutdown Enable

〈スペース〉キーを使って、システム終了機能を有効にします。対応する要素のボルトが限度より高かったり低かったりする場合は、システムは自動的に終了します。

- Beep Enable

〈スペース〉キーを使って、警告音機能を有効にします。対応する要素のボルトが限度より高かったり低かったりする場合は、警告音が鳴ります。

- High/Low Limit

これらのアイテムは、ボルトの上限と下限を設定します。

※ 高い限界の値は、低い限界の値より高く設定する必要があります。



Fan Speed Monitoring

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

pGuru Utility v1.00C				
ABIT EQ				
Fan Speed Monitoring				
	Reading	Shutdown Enable	Beep Enable	Low Limit
(*)CPU FAN Speed	7440 RPM	(*)	(*)	300 RPM
()NB FAN Speed	N/A	()	()	300 RPM
()SYS FAN Speed	N/A	()	()	300 RPM
()AUX1 FAN Speed	N/A	()	()	300 RPM
()AUX2 FAN Speed	N/A	()	()	300 RPM
()AUX3 FAN Speed	N/A	()	()	300 RPM
↓↑→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit				

CPU/NB/SYS/AUX1~3 FAN Speed

これらのアイテムは、CPU、NB、SYS、AUX1~3 ファンヘッドに接続されているファン速度を表示します。

- Shutdown Enable

〈スペース〉キーを使って、システム終了機能を有効にします。システムが、ファン速度が下限値よりも低いことを検出すると、システムは自動的に終了します。

- Beep Enable

〈スペース〉キーを使って、警告音機能を有効にします。ファン速度が下限値よりも低い場合は、警告音が鳴ります。

- Low Limit

これらのアイテムは、ファン速度の下限を設定します。

※ 3 ピンプラグを搭載したファンのみが、速度モニタリング機能を提供します。

FanEQ Control

pGuru Utility v1.00C		
ABIT EQ		
FanEQ Control		
▶ 1st FanEQ Group	Press Enter	Item Help ▶▶
▶ 2nd FanEQ Group	Press Enter	
↓↑→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value		F10:Save ESC:Exit

1st FanEQ Group

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります（1st FanEQ Group）。

pGuru Utility v1.00C		
ABIT EQ		
1st FanEQ Group		
CPU FanEQ Control	Enabled	Item Help ▶▶▶
-Reference Temperature	CPU Temperature	
-Control Temperature High	76°C/168°F	
-Control Temperature Low	66°C/150°F	
-Fan PWM Duty Cycle High	100 %	
- Fan PWM Duty Cycle Low	60 %	
NB FanEQ Control	Enabled	
-Reference Temperature	SYS Temperature	
-Control Temperature High	40°C/104°F	
-Control Temperature Low	30°C/86°F	
-DC Fan Voltage High	12.0 V	
-DC Fan Voltage Low	8.0 V	
SYS FanEQ Control	Enabled	
-Reference Temperature	SYS Temperature	
-Control Temperature High	40°C/104°F	
-Control Temperature Low	30°C/86°F	
-DC Fan Voltage High	12.0 V	
-DC Fan Voltage Low	8.0 V	
↓↑→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value		F10:Save ESC:Exit

CPU/NB/SYS FanEQ Control

[Enabled] に設定されている場合、これらアイテムは CPU、NB、または SYS ファン速度を以下の組み合わせでコントロールすることができます。

- Reference Temperature

このアイテムは CPU、SYS、PWM 温度の使用可能オプションの中で参照点の温度を測定します。但し、"CPU FanEQ Control" では "CPU Temperature" のアイテムのみ選択可能です。

- Control Temperature High/Low

ファン速度をコントロールするために温度の最低限度と最高限度値を設定します。

- Fan PWM Duty Cycle High/Low

このアイテムはファンに提供する PWM 負荷サイクルの上限と下限を設定します。

- DC Fan Voltage High/Low

ファンに提供する最低電圧と最高電圧値を設定します。

※ 高い限界の値は、低い限界の値より高く設定する必要があります。

🔑 2nd FanEQ Group

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります (2nd FanEQ Group)。

μGuru Utility V1.00		
ABIT EQ		
2nd FanEQ Group		
AUX1 FanEQ Control	Enabled	Item Help ▶▶▶
-Reference Temperature	SYS Temperature	
-Control Temperature High	40° C/104° F	
-Control Temperature Low	30° C/86° F	
-DC Fan Voltage High	12.0 V	
-DC Fan Voltage Low	8.0 V	
AUX2 FanEQ Control	Disabled	
AUX3 FanEQ Control	Disabled	
↓↑→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value		F10:Save ESC:Exit

AUX1~AUX3 FanEQ Control

[Enabled] に設定されている場合、これらアイテムは AUX1~AUX3 ファン速度を以下の組み合わせでコントロールすることができます。

- Reference Temperature

このアイテムは CPU、SYS、PWM 温度の使用可能オプションの中で参照点の温度を測定します。但し、"CPU FanEQ Control" では "CPU Temperature" のアイテムのみ選択可能です。

- Control Temperature High/Low

ファン速度をコントロールするために温度の最低限度と最高限度値を設定します。

- **DC Fan Voltage High/Low**

ファンに提供する最低電圧と最高電圧値を設定します。

※ 高い限界の値は、低い限界の値より高く設定する必要があります。

3.2 Standard CMOS Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	Tue. Aug 1 2006	Item Help
Time (hh:mm:ss)	12 : 34 : 56	
▶ IDE Channel 1 Master	None	
▶ IDE Channel 1 Slave	None	
▶ IDE Channel 2 Master	None	
▶ IDE Channel 2 Slave	None	
▶ IDE Channel 3 Master	None	
▶ IDE Channel 4 Master	None	
Drive A	1.44M, 3.5 in.	
Drive B	None	
Floppy 3 Mode Support	Disabled	
Halt On	All, But keyboard	
Base Memory	640K	
Extended Memory	1047552K	
Total Memory	1047552K	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

Date (mm:dd:yy)

このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

Time (hh:mm:ss)

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

☞ IDE Channel 1 Master/Slave, IDE Channel 2 Master/Slave, IDE Channel 3 Master, IDE Channel 4 Master

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
IDE Channel 1 Master		
IDE HDD Auto-Detection	Press Enter	Item Help
IDE Channel 1 Master	Auto	
Access Mode	Auto	
Capacity	0 MB	
Cylinder	0	
Head	0	
Precomp	0	
Landing Zone	0	
Sector	0	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

IDE HDD Auto-Detection

このアイテムでは、〈Enter〉キーを押すことによって IDE ドライバのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面上に自動的に表示されます。

IDE Channel 1 Master/Slave, IDE Channel 2 Master/Slave, Extended IDE Drive

[Auto]（自動）に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual]（マニュアル）に設定し、パラメータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

Access Mode

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] 設定のままにしておくと、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

Capacity

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなっています。

Cylinder

このアイテムはシリンダの数を構成します。

Head

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

Precomp

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンドラの数を表示します。

Landing Zone

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンドラの番号を表示します。

Sector

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります

Drive A & Drive B

このアイテムは取り付けたフロッピードライブ（通常、ドライブ A のみ）のタイプを設定します。

Floppy 3 Mode Support

このアイテムによって、日本のコンピュータシステムの「3 モードフロッピードライブ」を使用し、ドライブ A、B、または AB 両方のドライブを選択することができます。日本標準のフロッピードライブを使用しない場合、デフォルトの [Disabled]（使用不可能）設定のままにしてください。

Halt On

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

[All Errors]：システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

[No Errors]：システムブートは、エラーを検出すると停止します。

[All, But Keyboard]：システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Diskette]：システムブートは、ディスクエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Disk/Key]：システムブートは、ディスクまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

Base Memory

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

Extended Memory

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

Total Memory

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

3.3 Advanced BIOS Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced BIOS Features		
▶ CPU Feature	Press Enter	Item Help
▶ Hard Disk Boot Priority	Press Enter	
Quick Power on Self Test	Enabled	
First Boot Device	Floppy	
Second Boot Device	Hard Disk	
Third Boot Device	SATA CDROM	
Boot Other Device	Enabled	
Boot Up Floppy Seek	Disabled	
Boot Up NumLock Status	On	
Security Option	Setup	
MPS Version Ctrl For OS	1.4	
Report No FDD for OS	No	
Full Screen Logo Show	Enabled	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

CPU Feature

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced BIOS Features		
Limit CPUID MaxVal	Disabled	Item Help
C1E Function	Auto	
Execute Disable Bit	Enabled	
Virtualization Technology	Enabled	
EIST Function	Enabled	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

Limit CPUID MaxVal

[Enabled]に設定されているとき、このアイテムは CPUID の最大値を、通常 Windows NT4.0 のような古い OS で要求される、3 に制限します。

Windows XP のような OS の場合、このアイテムはデフォルトの設定[Disabled]のままにしてください。

C1E Function

このアイテムは、C1E (Enhanced Halt State) 機能のあるプロセッサでのみ表示されます。[Enabled]に設定すると、プロセッサが全体的な消費電力を削減します。

Execute Disable Bit

このアイテムは、エグゼキュート・ディスエーブル (XD ビット) 機能のあるプロセッサでのみ表示されます。[Enabled]に設定すると、このアイテムによって、プロセッサは、データページが不正なソフトウェアによって使用され、コードを実行されることを防ぎ、メモリ保護を行います。

Virtualization Technology

このオプションは Virtualization Technology の提供する追加ハードウェアの機能をオン・オフします。

EIST Function

このアイテムは、EIST (拡張版インテル SpeedStep テクノロジー) 機能のあるプロセッサでのみ表示されます。[Enabled] に設定すると、EIST が、複数の周波数と電圧のポイントを動的に切り換え、必要に応じてプロセッサとシステムの電力と性能のバランスを最適化します。

🔗 Advanced BIOS Features Setup Menu に戻ります

Hard Disk Boot Priority

このアイテムは、ハードディスクのブート優先順位を選択します。〈Enter〉キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ここで検出されたハードディスクをシステム起動のためのブートシーケンス用に選択することができます。

このアイテムは、1 次/2 次/3 次ブートデバイスアイテムのどれかに[ハードディスク]のオプションがあるときのみ機能します。

Quick Power On Self Test

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムはシステムの電源をオンにした後電源オンセルフテスト (POST) の速度を上げます。BIOS は POST の間いくつかのチェックを短縮したりスキップします。

First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device

[First Boot Device] (第 1 ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第 2 ブートデバイス)、[Third Boot Device] (第 3 ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第 1、第 2、第 3 ドライブを選択します。BIOS は選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の 3 つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

Boot Up Floppy Seek

[Enabled] (使用可能) に設定していると、BIOS はフロッピーディスクドライブがインストールされているかどうかをチェックします。

Boot Up NumLock Status

このアイテムは、システムが起動するときに数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On]: 数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off]: 矢印キーとしての数値キーパッド機能。

Security Option

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき - システムが起動するたびか、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup]: パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System]: パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

※ パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアにしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

MPS Version Ctrl For OS

この項目は、このマザーボードが使用する MPS (多重プロセッサ仕様) のバージョンを指定します。このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

Report No FDD For OS

[Yes] (はい) に設定すると、このアイテムによりフロッピーディスクドライブがなくても一部の古いオペレーティングシステムを実行できます。

Full Screen LOGO Show

この項目は追い出すとき全画面のロゴを示すことを定まる。

3.4 Advanced Chipset Features

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced Chipset Features		
DRAM Timing Selectable	By SPD	Item Help
X - CAS Latency Time	Auto	
X - DRAM RAS# to CAS# Delay	Auto	
X - DRAM RAS# Precharge	Auto	
X - Precharge Delay (tRAS)	Auto	
X - System Memory Frequency	Auto	
PCI-E Compliancy Mode	v1.0a	
Init Display First	PCI Slot	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

DRAM Timing Selectable

この項目は、次の 4 つの項目に対し、使用しているメモリモジュールに従って、最適のタイミングを設定します。デフォルトの設定「SPD による」は、SPD（シリアルプレゼンスの検出）デバイスのコンテンツを読み取ることによって、これら 4 つの項目を構成します。メモリモジュール上の EEPROM は、メモリの種類、サイズ、速度、電圧インターフェイス、およびモジュールバンクなどの、モジュールに関するクリティカルパラメータ情報を格納します。

- CAS Latency Time

この項目は、DRAM 読み取りコマンドとデータが実際に使用できる時間との間の待ち時間を制御します。

- DRAM RAS# to CAS# Delay

この項目は、DRAM アクティブコマンドと読み取り/書き込みコマンドの間の待ち時間を制御します。

- DRAM RAS# Precharge

プリチャージコマンドを DRAM に発行すると、この項目はアイドルクロックをコントロールします。

- Precharge Delay (tRAS)

このアイテムは、DRAM パラメータで使用する DRAM クロックの番号を制御します。

PCI-E Compliancy Mode

このアイテムは PCI Express 拡張カードのモードを選択します。

Init Display First

この項目では、主要なディスプレイカードを選択します。

3.5 Integrated Peripherals

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility

Integrated Peripherals

▶ OnChip IDE Device	Press Enter	Item Help
▶ OnChip PCI Device	Press Enter	
▶ Onboard PCI Device	Press Enter	
Onboard FDC Controller	Press Enter	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

👉 On-Chip IDE Device

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility

OnChip IDE Device

IDE Bus Master	Enabled	Item Help
SATA Mode	IDE	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

IDE Bus Master

このオプションは、DOS 環境の下で IDE バスマスティング機能の有効/無効を切り替えます。

SATA Mode

この項目は、オンチップシリアル ATA 用のモードを決定します。

[IDE]: オンチップシリアル ATA は IDE モードとして機能します。

[RAID]: オンチップシリアル ATA は RAID モードとして機能します。

[AHCI]: オンチップ・シリアル ATA はアドバンス・パフォーマンスと用途で AHCI (Advanced Host Controller Interface) モードとして働きます。

OnChip PCI Device

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
OnChip PCI Device		
USB Controller	Enabled	Item Help
- USB 2.0 Controller	Enabled	
- USB Keyboard Support via	OS	
- USB Mouse Support via	OS	
OnChip Audio Controller	Enabled	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

USB Controller

このアイテムはオンボード USB コントローラを使用できるようにします。

- USB 2.0 Controller

このアイテムはオンボード USB 2.0 コントローラを使用できるようにします。

- USB Keyboard Support via

USB キーボードをサポートしていない従来のオペレーティングシステム (DOS など) 用には [BIOS] (デフォルト設定) を選択してください。

- **USB Mouse Support via**

USB マウスをサポートしていない従来のオペレーティングシステム (DOS など) 用には [BIOS] (デフォルト設定) を選択してください。

OnChip Audio Controller

このアイテムはオーディオコントローラを使用できるようにします。

🔗 **Onboard PCI Device**

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Onboard PCI Device		
Onboard LAN1 Controller	Enabled	Item Help
- Invoke Boot Agent	Disabled	
Onboard LAN2 Controller	Enabled	
- Invoke Boot Agent	Disabled	
SIL3132 SATA Controller	Enabled	
- SATA Mode	IDE	
JMB363 SATA Controller	Enabled	
OnBoard 1394 Controller	Enabled	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

LAN 1 Controller

このアイテムはオンボード LAN1 コントローラを使用できるようにします。

LAN 2 Controller (AB9 Pro)

このアイテムはオンボード LAN2 コントローラを使用できるようにします。

- **Invoke Boot Agent**

このアイテムにより、（ディスクドライブの代わりに）ブート ROM を使用して、システムを起動し、構内通信網に直接アクセスできます。

SIL3132 SATA Controller

このアイテムは、SATA7 および eSATA1 ポートのオンボード SATA コントローラを有効または無効にします。

- SATA Mode

このアイテムは SATA ポートの様々なモードを表示します。

[IDE]: オンボードシリアル ATA は IDE モードとして機能します。

[RAID]: オンボードシリアル ATA は RAID モードとして機能します。

JMB363 SATA Controller

このアイテムは、SATA8、SATA9 および IDE1 ポートのオンボード SATA コントローラを有効または無効にします。

Onboard 1394 Controller

このアイテムはオンボード IEEE 1394 コントローラを使用できるようにします。

🔗 Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります

Onboard FDC Controller

このオプションは、オンボード Floppy Disk コントローラの有効/無効を切り替えます。

3.6 Power Management Setup

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Power Management Setup		
		Item Help
ACPI Suspend Type	S3 (Suspend-To-RAM)	
- Resume by USB from S3	Enabled	
Power Button Function	Instant-Off	
Wake Up by PME# of PCI	Disabled	
Wake Up by Onboard LAN1	Disabled	
Wake Up by Onboard LAN2	Disabled	
Resume by Alarm	Disabled	
X - Date(of month) Alarm	0	
X - Time(hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	
POWER ON Function	BUTTON ONLY	
X - KB Power ON Password	Enter	
X - Hot Key Power ON	Ctrl-F1	
Restore On AC Power Loss	Power Off	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

ACPI Suspend Type

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1 (PowerOn Suspend)] : 電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3 (Suspend-To-RAM)] : サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

- Resume by USB From S3

[Enabled](使用可能)に設定していると、このアイテムにより USB デバイスを使用して S3 (STR – RAM にサスペンド) 状態にあるシステムを呼び起こすことができます。このアイテムは、アイテム“ACPI サスペンドタイプ”が[S3 (STR)]に設定されているときのみ構成できます。

Power Button Function

このアイテムは、システムの電源をオフにする方法を選択します。

[Delay 4 Sec.] : 電源ボタンを 4 秒以上長く押し続けていると、システムの電源がオフになります。これにより、電源ボタンにうっかり触れたり押したりした場合にシステムの電源がオフになることを防ぐことができます。

[Instant-Off] : 電源ボタンを一度押してから離すと、直ちにシステムの電源がオフになります。

Wake Up by PME# of PCI

[Enabled]に設定すると、拡張 PCI カードへのアクセスにより、ソフトウェアオフ状態のシステムのウェイクが可能となります。PCI カードはウェイクアップ機能対応のものに限ります。

Wake Up by Onboard LAN1

[Enabled]に設定すると、オンボードの LAN1 ポートへのアクセスにより、ソフトウェアオフ状態のシステムのウェイクが可能となります。

Wake Up by Onboard LAN2 (AB9 Pro)

[Enabled]に設定すると、オンボードの LAN2 ポートへのアクセスにより、ソフトウェアオフ状態のシステムのウェイクが可能となります。

Resume by Alarm

[Enabled] (使用可能) に設定すると、“日 (月の) アラーム”および“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムでソフトオフ PC の電源をオンにしたい日と時間を設定できます。ただし、システムがこれらのアイテムで設定された日と時間より前に入電またはネットワーク (レジュームオンライン/LAN) によりアクセスされると、システムは入電やネットワークに優先順位を与えます。

- Date (of Month) Alarm

[0] : このオプションは、“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムで設定された時間に従って毎日システムの電源をオンにします。

[1-31] : このオプションは、システムの電源をオンにする日を選択します。システムは設定された日、および“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムで設定された時間に電源がオンになります。

- Time (hh:mm:ss) Alarm

このアイテムは、システムの電源をオンにする時間を設定します。

Power On Function

このアイテムは、システムの電源をオンにする方法を選択します。

[Password] : パスワードを使用してシステムの電源をオンにします。このオプションを選択してから、〈Enter〉を押してください。パスワードを入力してください。最大 5 文字まで入力できます。正確に同じパスワードを入力して確認したら、〈Enter〉を押します。

[Hot KEY] : 〈F1〉から〈F12〉までのどれかの機能を使用して、システムの電源をオンにします。

[Mouse Left] : マウスの左ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Mouse Right] : マウスの右ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Any KEY] : キーボードの任意のキーを使用して、システムの電源をオンにします。

[Button Only] : 電源ボタンのみを使用して、システムの電源をオンにします。

[Keyboard 98] : "Keyboard 98"互換キーボードの電源オンボタンを使用して、システムの電源をオンにします。

※ マウスの呼び起こし機能は、COM ポートや USB タイプではなく、PS/2 マウスでのみ使用可能です。一部の PS/2 マウスの中には、互換上の問題が理由で呼び起こしができないものもあります。キーボードの仕様があまりにも古いと、電源をオンにできないことがあります。

- KB Power ON Password

このアイテムは、コンピュータの電源をオンにするために必要なパスワードを設定します。

※ パスワードを忘れないでください。忘れると、この機能を再び利用するには、CMOS を消去して全てのパラメータをリセットしなければなりません。

- Hot Key Power ON

このアイテムは、〈Ctrl〉キーと機能キー (〈F1〉~〈F12〉) のどれかを同時に押すことによって、システムの電源をオンにします。

Restore On AC Power Loss

このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

[Power Off] : AC 電源の障害後に電源が回復しても、システムの電源はオフになったままです。システムの電源をオンにするには、電源ボタンを押す必要があります。

[Power On] : AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムの電源は自動的にオンになります。

[Last State] : AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムは電源障害が発生する前の状態に戻ります。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオフになっていたら、電源が回復したときにもシステムの電源はオフになったままです。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオンになっていたら、電源が回復したときにシステムの電源はオンになります。.

3.7 PnP/PCI Configurations

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
PnP/PCI Configurations		
Resources Controlled By	Auto (ESCD)	Item Help
X - IRQ Resources	Press Enter	
PCI/VGA Pallete Snoop	Disbaled	
** PCI Express relative items **		
Maximum Payload Size	128	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

Resources Controlled By

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

[Auto(ESCD)]：システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]：“IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

- IRQ Resources

〈Enter〉キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを[PCIデバイス]または[予約済み]に設定します。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
IRQ Resources		
IRQ-4 assigned to	PCI Device	Item Help
IRQ-5 assigned to	PCI Device	
IRQ-7 assigned to	PCI Device	
IRQ-10 assigned to	PCI Device	
IRQ-11 assigned to	PCI Device	
↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

PCI/VGA Palette Snoop

このアイテムは、MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled] : MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled] : MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

Maximum Payload Size

このアイテムは、PCI Express デバイスに対して最大の TLP ブレイロードサイズを設定します。

3.8 Load Fail-Safe Defaults

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3.9 Load Optimized Defaults

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3.10 Set Password

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

3.11 Save & Exit Setup

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

3.12 Exit Without Saving



このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。

4. ドライバ及びユーティリティ

当マザーボードに同梱の“ドライバ及びユーティリティ CD”には、マザーボードの基本及び拡張機能に必要なドライバ、ユーティリティ及びソフトウェアアプリケーションが収録されています。

“ドライバ及びユーティリティ CD”をコンピュータの CD-ROM ドライブに入れてください。これでインストール用のオートラン画面が表示されます。表示されない場合は、ファイルマネージャで CD-ROM のルートディレクトリを表示して、“AUTORUN” ファイルをダブルクリックしてください。



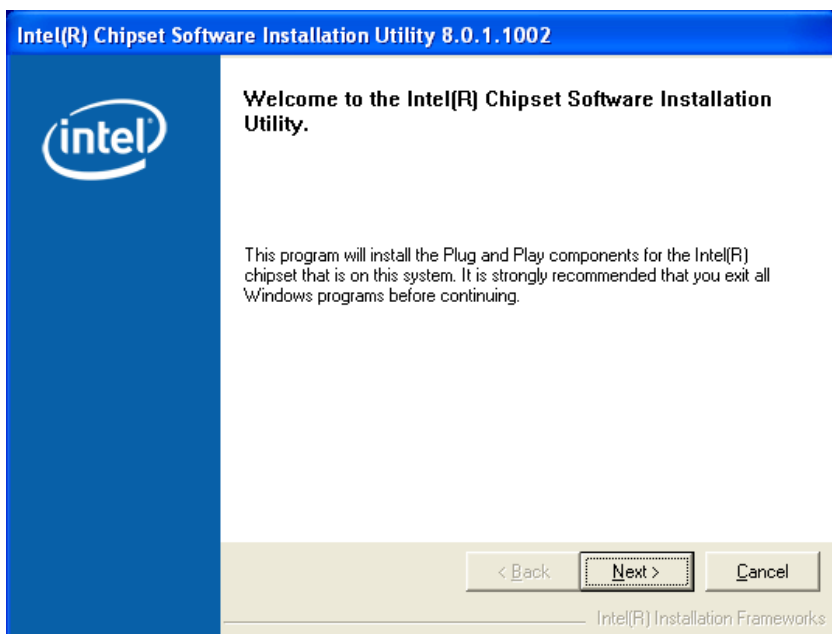
- [Drivers]: クリックすると、ドライバのインストールメニューが表示されます。
- [Manual]: クリックすると、ユーザーズマニュアルのメニューが表示されます。
- [Utility]: クリックすると、ユーティリティのインストールメニューが表示されます。
- [ABIT Utility]: クリックすると、ABIT 独自開発のユーティリティのインストールメニューが表示されます。
- [ Browse CD]: クリックすると、この“ドライバ及びユーティリティ CD”の内容が表示されます。
- [ Close]: クリックすると、このインストールメニューを終了します。

4.1 Intel チップセットソフトウェアインストールユーティリティ

当ユーティリティは対象のシステムに Windows [INF] ファイルをインストールするものです。これらファイルは、Intel チップセットコンポーネントの機能全てが正常に動作するようオペレーティングシステムに概要を伝達する働きを有します。

当ユーティリティのインストール方法：

1. インストールメニュー画面上で [Drivers] タブをクリックします。
2. [Intel Chipset Software Installation Utility] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



3. 画面上の指示に従ってインストールを完了させます。
4. システムを再起動させてドライバを有効にしてください。

4.2 Intel Matrix ストレージテクノロジドライバ

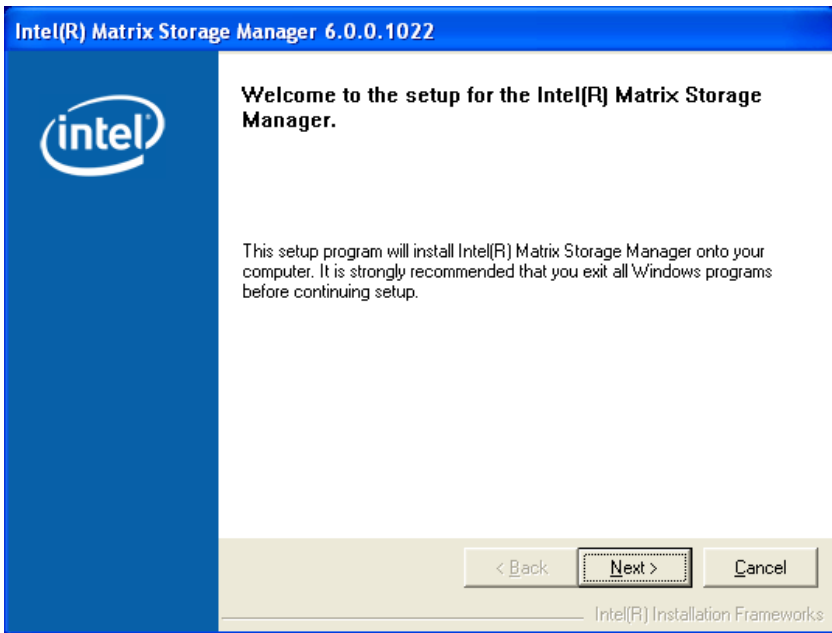
このドライバにより、オンチップ SATA コントローラ機能が使用できます。

※ このドライバのインストールは、BIOS セットアップメニューで RAID 機能を有効にした場合のみに、SATA1～SATA6 のコネクタに必要なになります。

BIOS セットアップメニューで RAID 機能を有効にするパス: Integrated Peripherals→OnChip IDE デバイス→SATA Mode→ [RAID] を選ぶ

このドライバのインストール方法：

1. インストールメニュー画面上で [Drivers] タブをクリックします。
2. [Intel Matrix Storage Technology Driver] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



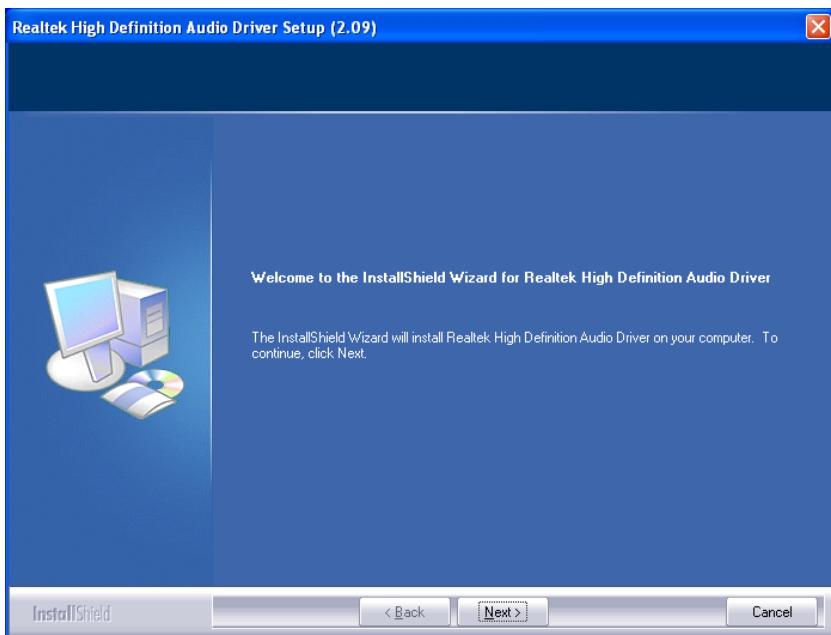
3. 画面上の指示に従ってインストールを完了させます。
4. システムを再起動させてドライバを有効にしてください。

4.3 Realtek オーディオドライバ

このドライバにより、オンボードのハイデフィニションオーディオコーデック機能が使用できます。

このドライバのインストール方法：

1. インストールメニュー画面上で **[Drivers]** タブをクリックします。
2. **[Audio Driver]** 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



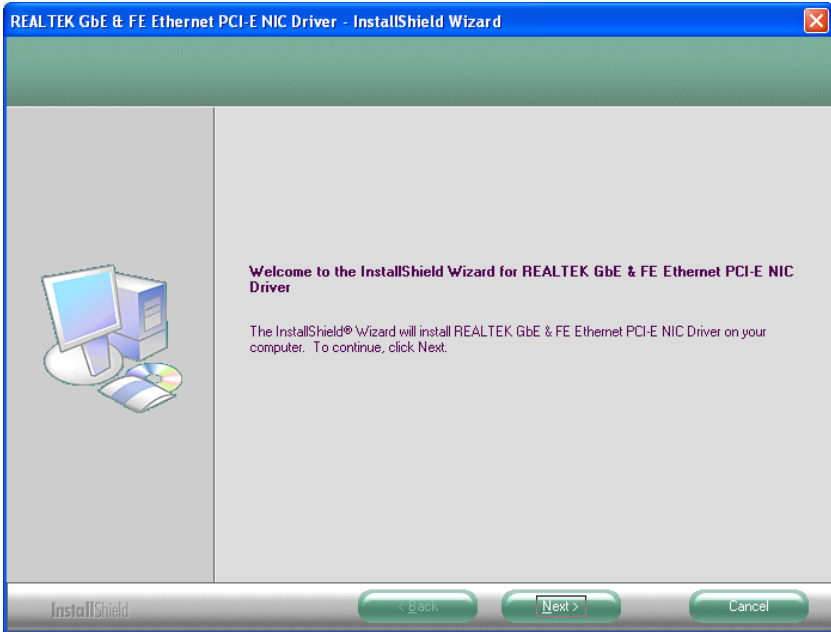
3. 画面上の指示に従ってインストールを完了させます。
4. システムを再起動させてドライバを有効にしてください。

4.4 Realtek LAN ドライバ

このドライバにより、オンボード PCIE ギガビット及び高速イーサネット NIC コントローラ機能が使用できます。

このドライバのインストール方法：

1. インストールメニュー画面上で [Drivers] タブをクリックします。
2. [LAN Driver] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



3. 画面上の指示に従ってインストールを完了させます。
4. システムを再起動させてドライバを有効にしてください。

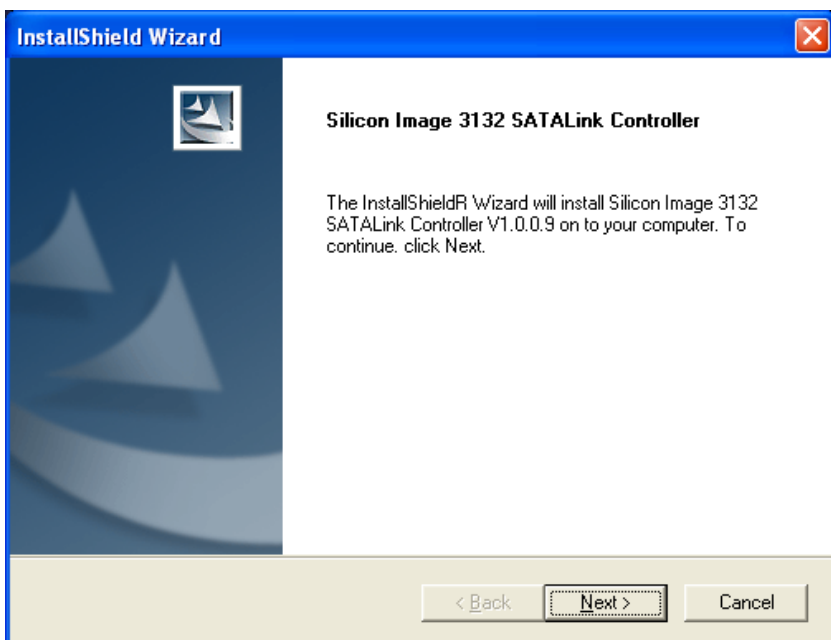
4.5 Silicon Image 3132 SATA ドライバ

このドライバにより、オンボード SATA コントローラ機能が使用できます。

※ このドライバのインストールは、SATA7 および eSATA1 のコネクタに必要です。

このドライバのインストール方法：

1. インストールメニュー画面上で [Drivers] タブをクリックします。
2. [Sil3132 SATA Driver] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



3. 画面上の指示に従ってインストールを完了させます。
4. システムを再起動させてドライバを有効にしてください。

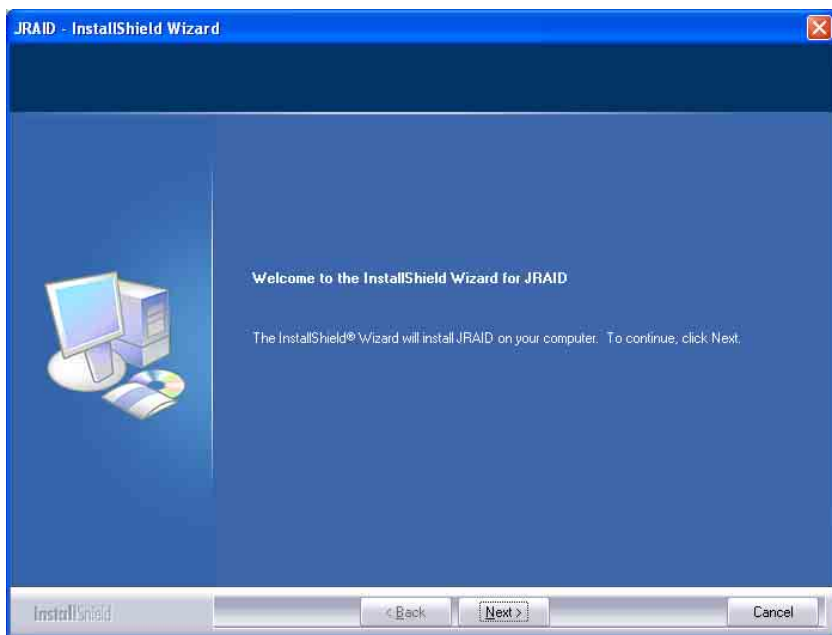
4.6 JMicon SATA ドライバ

このドライバにより、オンボード SATA RAID コントローラ機能が使用できます。

※ このドライバのインストールは、SATA8、SATA9、および IDE1 のコネクタを介して接続されたデバイスに必要です。

このドライバのインストール方法：

1. インストールメニュー画面上で [Drivers] タブをクリックします。
2. [JMicon SATA Driver] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



3. 画面上の指示に従ってインストールを完了させます。
4. システムを再起動させてドライバを有効にしてください。

4.7 USB 2.0 ドライバ

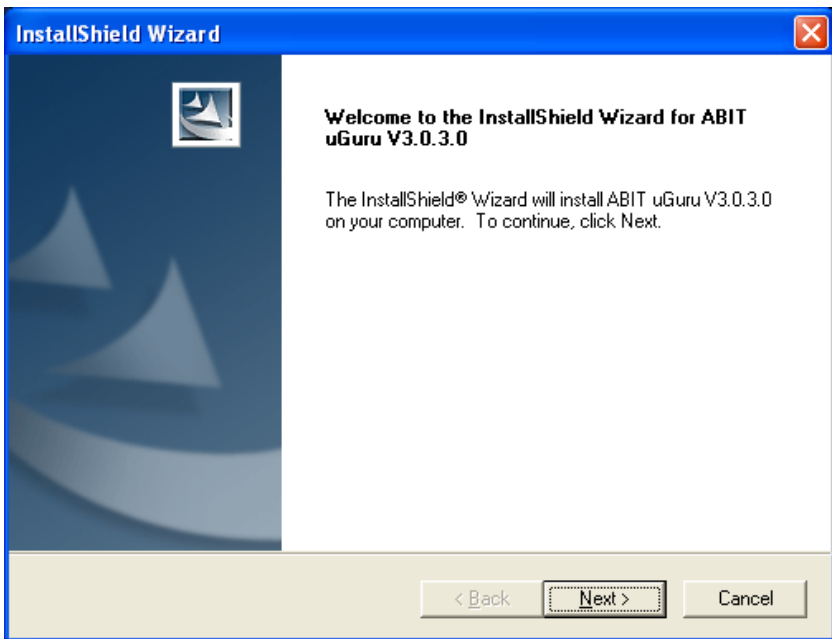
※ Windows 2000 の Service Pack 4, Windows XP の Service Pack 1 及びそれ以降のバージョンでは、このドライバをインストールする必要はありません。

4.8 ABIT µGuru ユーティリティ

µGuru ユーティリティをオプションの Guru Clock と併用することで、全画面モードでゲームプレイ時、音楽鑑賞時、インターネットブラウザやオフィスアプリケーション実行時に、アプリケーションを停止・終了することなくご使用のシステムパフォーマンスへのアクセス及び設定が可能です。

当ユーティリティのインストール方法：

1. インストールメニュー画面上で [ABIT Utility] タブをクリックします。
2. [ABIT Guru] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



3. 画面上の指示に従ってインストールを完了させます。
4. システムを再起動させてドライバを有効にしてください。

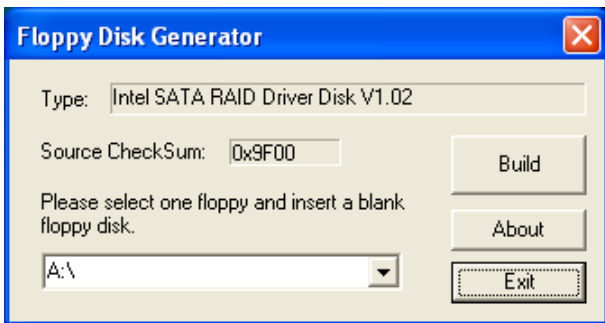
4.9 Intel SATA RAID ドライバディスクメーカー

※ この手順は、[SATA1～SATA6] のコネクタに接続された RAID 構成に OS をインストールする場合に必要です。

1. 3.5" フロッピーディスクドライブを準備し、このマザーボードの [FDC1] コネクタに接続する。
2. OS のインストールを開始する。
3. サードパーティの SCSI または RAID ドライバをインストールするよう画面で指示されたときに、このドライバディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。
4. <F6> キーを押し、画面の指示に従い、インストールを完了する。

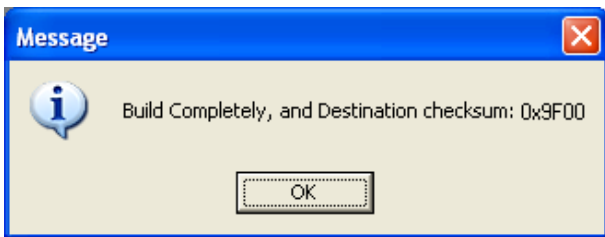
ドライバディスクを作成する:

1. インストールメニュー画面上で [Utility] タブをクリックします。
2. [Intel SATA RAID Driver Disk Maker] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



空のフロッピーディスクを選択されたフロッピードライブに挿入し、[Build] をクリックします。

3. [OK] をクリックすると、SATA ドライバディスクの作成が完了します。



4. [Exit] をクリックして、Floppy Disk Generator を終了します。

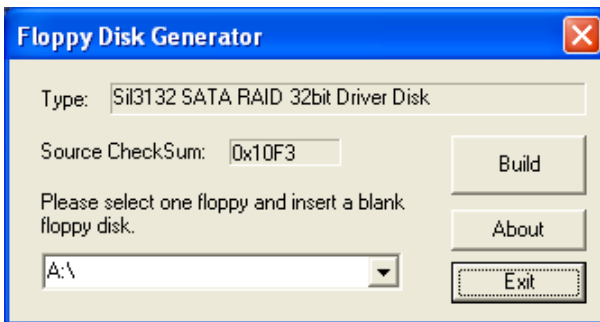
4.10 Sil3132 SATA RAID ドライバディスクメーカー

この手順は、[SATA7] と [eSATA1] のコネクタの間に接続された RAID 構成に OS をインストールする場合に必要です。

1. 3.5" フロッピーディスクドライブを準備し、このマザーボードの [FDC1] コネクタに接続する。
2. OS のインストールを開始する。
3. サードパーティの SCSI または RAID ドライバをインストールするよう画面で指示されたときに、このドライバディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。
4. <F6> キーを押し、画面の指示に従い、インストールを完了する。

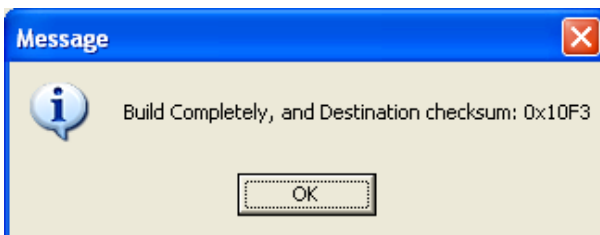
ドライバディスクを作成する:

1. インストールメニュー画面上で [Utility] タブをクリックします。
2. [Sil3132 SATA RAID Driver Disk Maker[32bit]] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



空のフロッピーディスクを選択されたフロッピードライブに挿入し、[Build] をクリックします。

3. [OK] をクリックすると、SATA ドライバディスクの作成が完了します。



4. [Exit] をクリックして、Floppy Disk Generator を終了します。

4.11 JMicron SATA RAID ドライバディスクメーカー

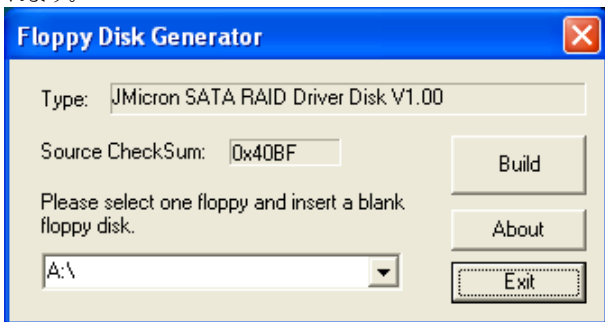
この手順は、OS インストール中に、[SATA8]、[SATA9]、および [IDE1] のコネクタに接続されたデバイスへのアクセスがある場合に必要です。

1. 3.5" フロッピーディスクドライブを準備し、このマザーボードの [FDC1] コネクタに接続する。
2. OS のインストールを開始する。
3. サードパーティの SCSI または RAID ドライバをインストールするよう画面で指示されたときに、このドライバディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。
4. <F6> キーを押し、画面の指示に従い、インストールを完了する。

※ この手順は、[SATA8]、[SATA9]、または [IDE1] のコネクタに接続された CD-ROM ドライブから OS をインストールする場合に、特に必要です。

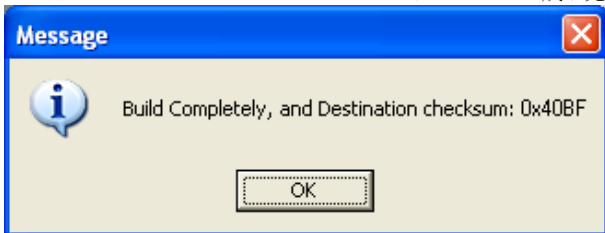
ドライバディスクを作成する:

1. インストールメニュー画面上で [Utility] タブをクリックします。
2. [JMicron SATA RAID Driver Disk Maker] 項目をクリックします。以下の画面が表示されます。



空のフロッピーディスクを選択されたフロッピードライブに挿入し、[Build] をクリックします。

3. [OK] をクリックすると、SATA ドライバディスクの作成が完了します。



4. [Exit] をクリックして、Floppy Disk Generator を終了します。

[illegible]

5. 付録

5.1 POST コード定義

5.1.1 AWARD POST コード定義

POST (16 進法)	説 明
CF	CMOS R/W 機能のテスト
C0	チップセットの早期の初期化 -シャドウ RAM を無効にする。 -L2 キャッシュを無効にする（ソケット 7 以下）。 -ベーシックのチップセットレジスタをプログラム。
C1	メモリの検出 -DRAM のサイズ、種類、ECC の自動検出。 -L2 キャッシュの自動検出（ソケット 7 以下）。
C3	圧縮された BIOS コードを DRAM に拡張。
C5	チップセットフックをコールして、BIOS を E000 および F000 シャドウ RAM にコピー。
01	物理アドレス 1000:0 に配置されている Xgroup コードを拡張。
03	初期 Superio_Early_Init スイッチ。
05	1. 画面を消す。 2. CMOS のエラーフラッグを消去。
07	1. 8042 インタフェースを消去。 2. 8042 自己検査を初期化。
08	1. Winbond 977 シリーズの Super I/O チップに対して特殊なキーボードコントローラをテスト。 2. キーボードインタフェースを有効にする。
0A	1. PS/2 マウスインタフェースを無効にする（オプション）。 2. ポートおよびインタフェーススワップの後にくるキーボードとマウス用ポートの自動検出（オプション） 3. Winbond 977 シリーズの Super I/O チップに対してキーボードをリセット。
0E	F000h セグメントシャドウをテストして、それが R/W 対応であるかないかを調べる。テストが失敗したら、スピーカがビーブ音を発し続ける。
10	フラッシュの種類を自動検出して、適切なフラッシュ R/W コードを F000 内のランタイム領域にロードしながら、ESCD および DMI をサポート。
12	ウォーキング 1 のアルゴリズムを使用して CMOS 回路内のインタフェースを検査。また、リアルタイムのクロック電源状態を設定して、次にオーバーライドをチェック。
14	チップセットのデフォルト値をチップセット内にプログラム。チップセットのデフォルト値は OEM 顧客により MODBINable。
16	Early_Init_Onboard_Generator が定義されている場合の初期オンボードクロックジェネレータ。POST 26 もご覧ください。
18	ブランド、SMI の種類（Cyrix または Intel） および CPU レベル（586 または 686）を含む CPU 情報の検出。
1B	初期割り込みベクトル表。特に指定されていない場合、すべての H/W 割り込みは SPURIOUS_INT_HDLR & S/W 割り込みから SPURIOUS_soft_HDLR に送られます。
1D	初期 EARLY_PM_INIT スイッチ。
1F	キーボード行列をロード（ノートブックのプラットフォーム）。
21	HPM の初期化（ノートブックのプラットフォーム）。

23	1. RTC 値の妥当性をチェック：例：5Ah の値は RTC 分の場合無効な値となります。 2. CMOS 設定を BIOS スタックにロード。CMOS チェックサムが失敗した場合、その代わりにデフォルト値を使用してください。
24	PCI & PnP を使用する場合、BIOS リソースを準備。ESCD が有効であれば、ESCD のレガシー情報を考慮に入れてください。
25	アーリー PCI 初期化: -PCI バス番号を列挙。 -メモリ & I/O リソースを割り当て -有効な VGA device & VGA BIOS を検索し、それを C000:0 に入れます。
26	1. Early_Init_Onboard_Generator がオンボードクロックジェネレータ初期化を定義されていない場合。それぞれのクロックリソースを無効にすると、PCI & DIMM スロットは空になります。 2. Init オンボード PWM 3. Init オンボード H/W モニタ装置
27	INT 09 バッファを初期化。
29	1. 0-640K メモリアドレスに対して CPU 内部 MTRR (P6 & PII) をプログラム。 2. Pentium クラス CPU に対して APIC を初期化。 3. CMOS セットアップによってアーリーチップセットをプログラム。例：オンボード IDE コントローラ。 4. CPU 速度を測定。
2B	ビデオ BIOS を呼び出し
2D	1. 2 バイト言語フォントを初期化 (オプション) 2. Award タイトル、CPU の種類、CPU 速度、フル画面ロゴなどの、オンスクリーンディスプレイに情報を表示。
33	Early_Reset_KB が無効になっている場合、キーボードをリセット。例：Winbond 977 シリーズ Super I/O チップ。POST 63 もご覧ください。
35	DMA チャンネル 0 をテスト。
37	DMA チャンネル 1 をテスト。
39	DMA ベージレジスタをテスト。
3C	8254 をテスト。
3E	チャンネル 1 に対して 8259 割り込みマスクビットをテスト。
40	チャンネル 2 に対して 8259 割り込みマスクビットをテスト。
43	8259 機能をテスト。
47	EISA スロットを初期化。
49	1. 各 64K ページの最後のダブルワードをテストすることによって合計メモリを計算。 2. AMD K5 CPU に対して書き込み割り当てをプログラム。
4E	1. M1 CPU の MTRR をプログラム。 2. P6 クラスに対して L2 キャッシュを初期化し、適切なキャッシュ可能な範囲を持つ CPU をプログラム 3. P6 クラスの CPU に対して APIC を初期化。 4. MP プラットフォーム上で、各 CPU 感のキャッシュ可能な範囲が一致しない場合、キャッシュ可能な範囲をより小さな範囲に調整。
50	USB を初期化。
52	すべてのメモリをテスト (すべての拡張されたメモリを 0 にクリア)。
53	H/W ジャンパに従ってパスワードをクリア (オプション)
55	プロセッサの数を表示 (多重プロセッサのプラットフォーム)。
57	PnP ログを表示。 初期 ISA PnP を初期化。 -CSN をすべての ISA PnP 装置に割り当て。
59	結合された Trend ウィルス防止コードを初期化。
5B	(オプション機能) FDD から AWDFLASH.EXE を入力するためのメッセージを表示 (オプション)。

5D	1. Init_Onboard_Super_IO を初期化 2. Init_Onboard_AUDIO を初期化
60	Setup ユーティリティの入力が可能;つまり、この POST ステージが CMOS のセットアップ ユーティリティを入力するまでは入力不可能。
63	Early_Reset_KB が定義されていない場合、キーボードをリセット。
65	PS/2 マウスを初期化。
67	機能コード: INT 15h ax=E820h に対してメモリサイズの情報を準備。
69	L2 キャッシュをオンにする。
6B	Setup および自動構成表内に記述された項目に従ってチップセットレジスタをプログラム。
6D	1. リソースをすべての ISA PnP 装置に割り当て。 2. Setup 内の対応する項目が“AUTO”に設定されている場合、ボード上の COM ポートにポ ート割当て。
6F	1. フロッピーコントローラを初期化。 2. 40:ハードウェアでフロッピーに関連するフィールドをセットアップ。
75	すべての IDE 装置 (HDD、LS120、ZIP、CDROM など) を検出し、インストール。
76	(オプション機能) AWDFLASH.EXE を入力: - AWDFLASH がフロッピードライブに見つかった場合、 -ALT+F2 を押し続けている場合
77	シリアルポートとパラレルポートを検出。
7A	コプロセッサを検出しインストール。
7C	Init HDD 書き込み保護
7F	全画面ロゴがサポートされている場合、テキストモードに切り替え。 -エラーが発生する場合、エラーを報告しキー入力を待つ。 -エラーが発生しない場合、または F1 キーが押されている場合続行:。 •EPA またはカスタマイズされたロゴをクリア。
E8POST.ASM のスタート	
82	1. チップセット電源管理フックをコール。 2. EPA ログによって使用されているテキストフォントを回復 (全画面ロゴに対しては未サ ポート)。 3. パスワードが設定されている場合、パスワードの入力を求める。
83	スタックにあるすべてのデータを CMOS に保存し直す。
84	ISA PnP ブート装置を初期化。
85	1. USB 最終初期化 2. 画面をテキストモードに切り替え
87	NET PC: SYSID 構造の構築
89	1. IRQ を PCI デバイスに割り当て 2. メモリの上で ACPI 表をセットアップ。
8B	1. すべての ISA アダプタ ROM を呼び出し 2. すべての PCI ROM を呼び出し (VGA を除く)
8D	1. CMOS セットアップに従ってパリティチェックの有効/無効を切り替え 2. APM 初期化
8F	IRQ のノイズを消去
93	Trend ウィルス防止コードに対して HDD ブートセクタ情報の読み込み。
94	1. L2 キャッシュを有効 2. 夏時間調整をプログラム 3. 起動速度をプログラム 4. チップセットの最終初期化。 5. 電源管理の最終初期化 6. 画面とディスプレイの要約表を消去 7. K6 書き込み割り当てをプログラム 8. P6 クラスの書き込み合成をプログラム

95	Update キーボード LED と typematic rate (キーのオートリピート速度)
96	1. MP 表を構築。 2. ESCD を構築し更新。 3. CMOS センチュリーを 20h または 19h に設定。 4. CMOS 時間を DOS のタイマチックにロード。 5. MSIRQ の経路指定表を構築。
FF	試みをブート (INT 19h)。

5.1.2 AC2005 POST コード定義

POST (16 進法)	説 明
電源オンシーケンス	
8.1.	電源オンシーケンスの開始
8.2.	ATX 電源装置の有効
8.3.	ATX 電源装置の準備完了
8.4.	DDR 電圧の準備完了
8.5.	CPU コード電圧に対して PWM をセットアップ
8.6.	CPU コード電圧に対して PWM をアサート
8.7.	CPU エラー電圧をチェック
8.8.	CPU コア電圧の準備完了
8.9.	初期クロックジェネレータ IC
8.A.	ノースブリッジチップセット電圧の準備完了
8.B.	AGP 電圧の準備完了
8.C.	3VDUAL 電圧の準備完了
8.D.	VDDA 2.5V 電圧の準備完了
8.D.	GMCHVTT 電圧の準備完了
8.E.	CPU ファン速度のチェック
8.F.	すべての電源準備完了をアサート
9.0.	uGuru 初期プロセスを完了 AWARD BIOS 起動ジョブを継承
電源オフシーケンス	
9.1.	電源オフシーケンスを開始
9.2.	すべての電源のアサート停止
9.3.	電源オンのアサートなし
9.4.	LDT バス電源おアサート停止
9.5.	CPU コア電圧に対する PWM のアサート停止
9.6.	CPU コア電圧のアサート停止
9.7.	CPU コア電圧のチェック
9.8.	ATX 電源装置のアサート停止
9.9.	電源オフシーケンスを完了
その他	
F.0.	ボタンリセット
F.1.	ソフトウェアリセット
F.2.	電源オンシーケンスのタイムアウト
F.3.	電源オフシーケンスのタイムオフ

5.2 トラブルシューティング（テクニカルサポートの受け方について？）

5.2.1 Q & A

Q: 新しい PC システムを組み立てるときに CMOS をクリアする必要がありますか？

A: はい、新しいマザーボードを装着する際に、CMOS をクリアすることを強くお勧めします。CMOS ジャンパをデフォルトの 1-2 のポジションから 2-3 のポジションに移し、2、3 秒待ち、そして元に戻してください。システムをはじめて起動するとき、ユーザーズマニュアルを参照し、Load Optimized Default を呼び込んでください。

Q: BIOS 更新中にハングアップしてしまったり、間違った CPU パラメータを設定してしまった場合にはどうしたらよいでしょうか？

A: BIOS 更新の失敗や、CPU パラメータ設定間違いによるシステムのハングアップするときは、常に CMOS クリアを行ってサイド起動させてみてください。

Q: 機械の電源を切ったすぐ後に、システムが起動しないのですが？

A: 電源を切った後は、最低 30 秒間待ってから再度電源を入れてください。

Q: BIOS 内部でオーバークロックまたは非標準の設定を試みると、システムを起動できず、画面に何も表示されません。

A: 一部の BIOS 設定をデフォルトからオーバークロックまたは非標準の状態に変更しても、ハードウェアまたはメインボードが永久的に損傷する原因とはなりません。

当社では、次の 3 つのトラブルシューティングによって CMOS データを放電し、ハードウェアのデフォルトの状態に回復するようにお勧めします。これにより、メインボードが再び機能し、ユーザーの方がわざわざメインボードをお買い上げ時点の設定に戻したり、RMA プロセスを実行する必要はなくなります。

1. 電源装置の電源をオフにし、1 分後に再びオンにします。電源がオンにならない場合、電源コードを抜いて 1 分後に差し込んでください。キーボードの<Insert>キーを押したまま、電源オンボタンを押してシステムを起動します。正常に起動したら、<Insert>キーを離し、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 1 を 3 度繰り返すか、ステップ 2 を試みてください。
2. 電源装置の電源をオフにするか電源コードを抜いて、シャースを開けます。電池の傍に CCMOS ジャンパがあります。ジャンパ位置をデフォルトの 1-2 から 2-3 に 1 分間変更して CMOS データを放電し、再びデフォルトの 1-2 に戻します。シャースを閉じ、電源装置の電源をオンにするか、電源コードを差し込みます。電源オンボタンを押して、システムを起動します。正常に起動したら、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って、正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 3 を試みてください。
3. ステップ 2 と同じ手順で、メインボードから ATX 電源コネクタを抜き、CMOS が放電している間にメインボードの電池を取り外します。

Q: テクニカルサポートへの要求に対する迅速な反応を得るにはどうしますか?

A: "テクニカルサポート用紙"を送る前に、簡単なトラブルシューティングをなさってください。

本体組み上げ後、システムが起動しません：

マザーボードの対応仕様をご覧になり、本体の主要コンポーネントが皆その仕様を満たしているかご確認ください。

そのため以下のことを行います：

- ⚡ 不必要なアドオンデバイス（CPU、VGA カード、DRAM、電源を除く）を外して再起動します。
- ⚡ それでも問題がある場合は、別のブランド/型式の VGA カードに換えてシステム起動を試みてください。
- ⚡ それでも問題がある場合は、別のブランド/型式のメモリモジュールに換えてみてください。
- ⚡ それでも問題がある場合は、別のブランド/型式の CPU と電源に換えてみてください。

システムが問題なく起動した場合、シャットダウンしてから本来インストールしたインタフェースカード及びデバイスを順にインストールして再起動させます。一度に 1 つのデバイスずつインストールし直しながらシステムが起動しなくなる時点まで繰り返します。

OS の不具合：

システムが S3 からのリジュームやその他テストプログラム実行後フリーズする場合は、CPU が正しく認識されていない、表示解像度が合っていない、あるプログラムが実行不能である等の原因が考えられます。下記のことをお試しください：

- ⚡ マザーボードの BIOS を最新バージョンにアップグレードします。
- ⚡ アドオンデバイスのドライバを最新バージョンにアップグレードします。
- ⚡ "コントロールパネル/システム"の内容で競合がないか確認します。

Q: "テクニカルサポート用紙"はどのように書きますか?

A: この"テクニカルサポート用紙"への書き込みには、下記の指示をご参照ください。

- **地域：**国名を書きます。
- **E メール：**ご自身の E メール連絡先を書きます。
- **お名前：**お名前を書きます。
- **姓：**苗字を書きます。
- **件名：**マザーボードのモデル名及び問題点を書きます。
 - 例 1：AA8XE 及び SCSI 29160 動作トラブル
 - 例 2：AA8XE 起動失敗、POST コード AF
 - 例 3：AA8XE（S3 リジューム時にフリーズ）
- **マザーボード：**お持ちのマザーボードモデル名及びバージョン番号を書きます。
 - 例：AA8XE REV：1.00
- **BIOS バージョン：**お持ちのマザーボードの BIOS バージョンを書きます。（POST 実行中に画面に表示されます。）

- **CPU**：使用 CPU のブランド名及びクロック（MHz）を書きます。（オーバークロック使用時にはその状況も書きます。）
例：Intel 650 3.4GHz（OC FSB=220MHz）
- **メモリのブランド**：メモリモジュールのブランド及びモデル名を書きます。
例：メモリブランド：Kingston（KVR533D2N4/1G）
- **メモリサイズ**：メモリモジュールの容量・数量を書きます。
例：512M* 4PCS
- **メモリ設定**：BIOS セットアップでのメモリ設定を書きます。
例：メモリタイミング：2.5-3-3-7 @533MHz
- **グラフィックス情報**：グラフィックスカードのブランド、モデル、及びドライババージョンを書きます。
- **グラフィックスカード**：グラフィックスカードのブランド、モデルを書きます。
例：ATI RADEON X850 XT PE
- **グラフィックスドライババージョン**：グラフィックスカードのドライバのバージョンを書きます。
例：Catalyst 5.12V
- **電源メーカー**：電源ユニットのブランド及びモデル名を書きます。
- **電源容量**：電源出力ワット数を書きます。
- **ストレージ装置**：HDD ドライブのブランド及び仕様、数量を書きます。IDE（マスタまたはスレーブ）または SATA ポートのいずれを使用か、RAID 割り当て状況も含めます。
例 1：WD Caviar WD600 60GB（IDE2 マスタ接続）、Maxtor DiamondMax 10 SATA 300GB（SATA 3 接続）
例 2：Maxtor DiamondMax 10 SATA 300GB *2（SATA 3 接続、SATA 4 RAID 1）
- **光学デバイス**：光学ドライブのブランドと仕様、数量を書きます。IDE（マスタまたはスレーブ）または SATA ポートの何れに接続かも書きます。
- **その他デバイス**：今回のトラブルに関係すると確信されるアドオンカードまたは USB デバイスを特定します。問題の原因が不明の場合は、システムにインストールされているアドオンカードまたは USB デバイスを全て書きます。
例：AHA 29160（PCI 2 接続）、Sandisk Cruzer mini 256MB USB フラッシュディスク
- **オペレーティングシステム**：OS の種類と言語バージョンを書きます。
例：Microsoft Windows XP SP2、英語バージョン
例：Microsoft Media Center Edition 2005、韓国語バージョン
- **トラブルの説明**：システム設定の問題点を書きます。可能であればトラブルを再現するステップを説明します。

テクニカルサポート用紙は次ページに示されていますし、当社ウェブサイトからオンラインで記入もできます。（<http://www.abit.com.tw/page/en/contact/technical.php>）。

Q. マザーボードが使用不能の場合、マザーボード返品には販売店へ行くか、RMA 手順を踏むのでしょうか？

A: トラブルシューティング手順を全部踏んでもトラブルが解消されない場合、またはマザーボードに明らかに欠陥がある場合は、当社 RMA センターにご連絡ください。

（http://www2.abit.com.tw/page/en/contact/index.php?pFUN_KEY=18000&pTITLE_IMG）

5.2.2 テクニカルサポート用紙

地域：	
E メール：	
お名前：	
姓：	
件名：	
マザーボード：	
BIOS バージョン：	
CPU：	
メモリブランド：	
メモリサイズ：	
メモリ設定：	
グラフィックスカード：	
グラフィックスドライババージョン：	
電源メーカー：	
電源容量：	
ストレージ装置：	
光学デバイス：	
その他デバイス：	
オペレーティングシステム：	
トラブルの説明：	



5.2.3 Universal ABIT へのご連絡情報

台湾本社

Universal ABIT Co., Ltd.

No. 323, Yang Guang St., Neihu,
Taipei, 114, Taiwan

電話：886-2-8751-3380

ファックス：886-2-8751-3381

営業：sales@abit.com.tw

マーケティング：market@abit.com.tw

北米、南米

Universal ABIT (USA) Corporation

2901 Bayview Drive,
Fremont, CA 94538, U.S.A.

電話：1-510-623-0500

ファックス：1-510-623-1092

ウェブサイト：<http://www.abit-usa.com>

南米営業：ventas@abit-usa.com

RMA センター：<http://rma.abit-usa.com>

英国、アイルランド

Universal ABIT UK Corporation

Unit 3, 24-26 Boulton Road, Stevenage,
Herts SG1 4QX, UK

電話：44-1438-228888

ファックス：44-1438-226333

ドイツ、ベネルクス（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイス

Universal ABIT NL B.V.

Jan van Riebeeckweg 15, 5928LG,
Venlo, The Netherlands

電話：31-77-3204428

ファックス：31-77-3204420

オーストリア、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、スロバキア、クロアチア、ボスニア、セルビア、マケドニア、スロベニア

Universal ABIT Austria Computer GmbH

Schmalbachstrasse 5, A-2201 Gerasdorf /
Wien, Austria

電話：43-1-7346709

ファックス：43-1-7346713

連絡先：office@abit-austria.at

ウェブサイト：<http://www.abit-austria.at>

上海

Universal ABIT (Shanghai) Co. Ltd.

FL 19 Xuhui Yuan BLOG NO.1089
ZhongShan s 2 RD, ShangHai 200030
The People's Republic of China

電話：(86-21) 54102211

ファックス：(86-21) 54104791

ウェブサイト：<http://www.abit.com.cn>

ポーランド

Universal ABIT Poland (駐在員事務所)

Strzegomska 310/2, 54-432 Wroclaw

電話：+48-71-718-12-39

連絡先：Grzegorz Morgiel

ロシア

Universal ABIT Russia (駐在員事務所)

連絡先：info@abit.ru

ウェブサイト：www.abit.ru

トルコ

Universal ABIT Turkey (駐在員事務所)

電話：90 532 211 6860



UNIVERSAL ABIT Co., Ltd.

<http://www.abit.com.tw>